

持続的な、
社会と世界を。

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan

近畿農政局業務説明会

農林水産省 近畿農政局

CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

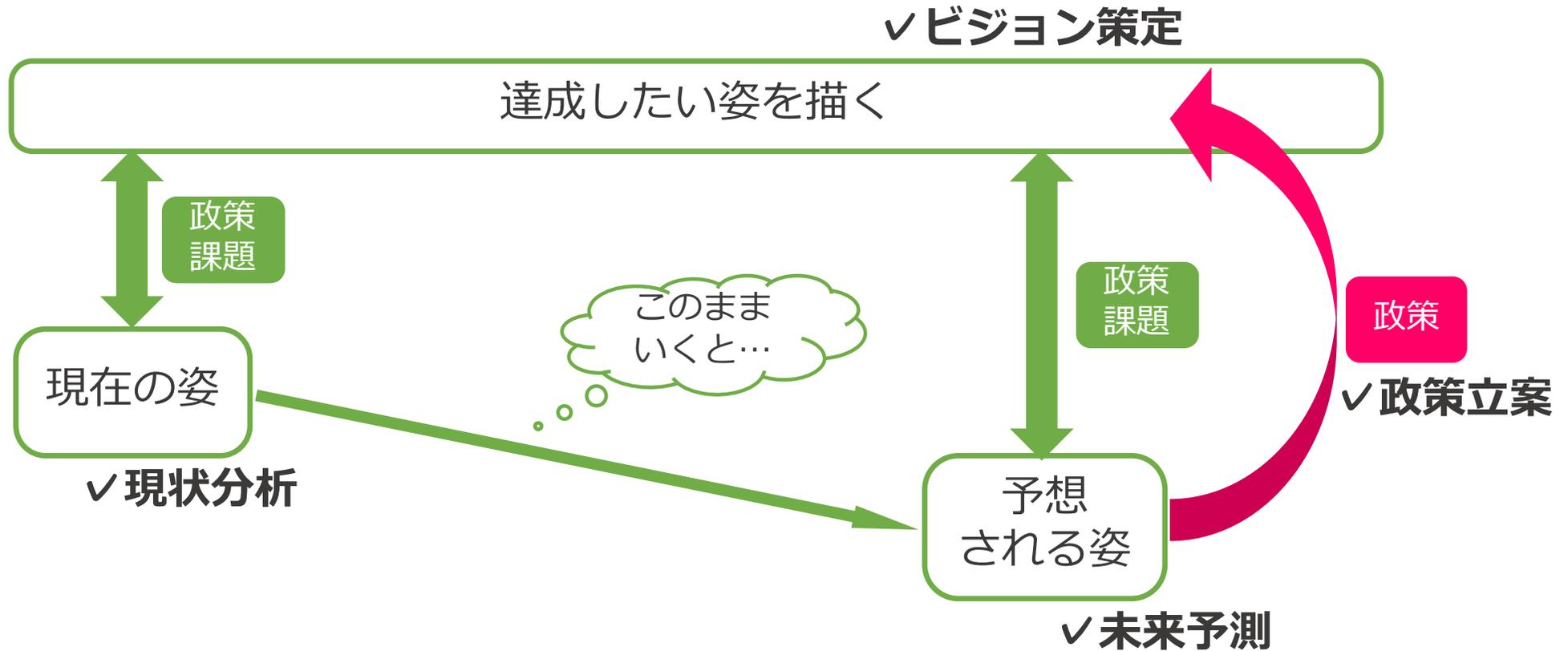
03

農林水産省の職場環境

04

近畿農政局若手職員紹介

国家公務員とは？



- 現状分析→ビジョン策定→政策課題の特定・未来予測→政策立案→合意形成→政策実施
- いわゆる「社会を良くするしごと」
ただし、地方自治体や民間企業も、社会を良くするために働いているのは同じ。
違いは、**1. 使えるツール（法律、予算、税制）**
2. 「日本全体」の利益を考える役割

CONTENTS

本日はお話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

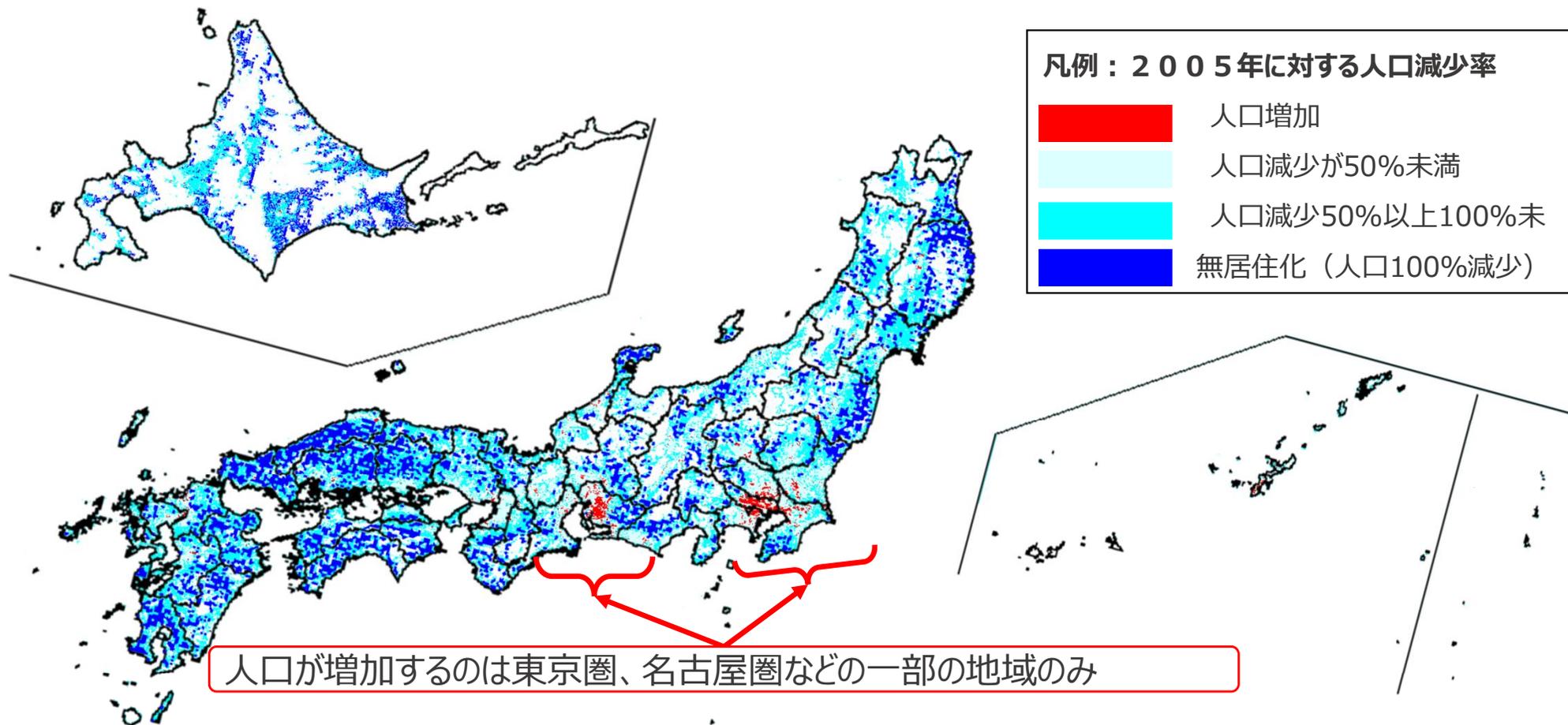
農林水産省の職場環境

04

近畿農政局若手職員紹介

日本の課題：人口減少と過疎化

**大都市における超低出生率・地方における都市への人口流出
+ 低出生率が日本全体の人口減少につながっている。**



資料： H23.2.21 国土審議会政策部会長期展望委員会資料より抜粋改変

・総務省「国勢調査報告」、国土交通省国土計画局推計値（メッシュ別将来人口）をもとに、コーホートを用い、出生と死亡にかかる「自然増減」及び転出入にかかる純移動の「人口変動要因」のそれぞれについて将来値を仮定し推計。

・2005年を100とした場合の2050年の人口割合を1km²区画でプロット（白色部分は1km²あたり人口がデータ上1人に満たない場合）。

人口減少・過疎化の何が問題なのか

人口減少、過疎化は地方だけではなく**日本全体の課題**

【GDP世界4位】

過疎化・人口減少の加速化による消費・経済力の低下
(日本の国際的プレゼンス低下)

(地方出身者) 自分が生まれ育った故郷がなくなる喪失感

食料供給機能の低下

※農業産出額のうち大都市近郊県（茨城・千葉・愛知）の割合は約13.7%

ライフスタイルの制約
→暮らせる田舎、観光資源の喪失

※平成29年度生産農業所得統計

多面的機能の低下

※食料供給以外の多面にわたる機能（洪水・土砂崩れ防止などの国土保全機能）

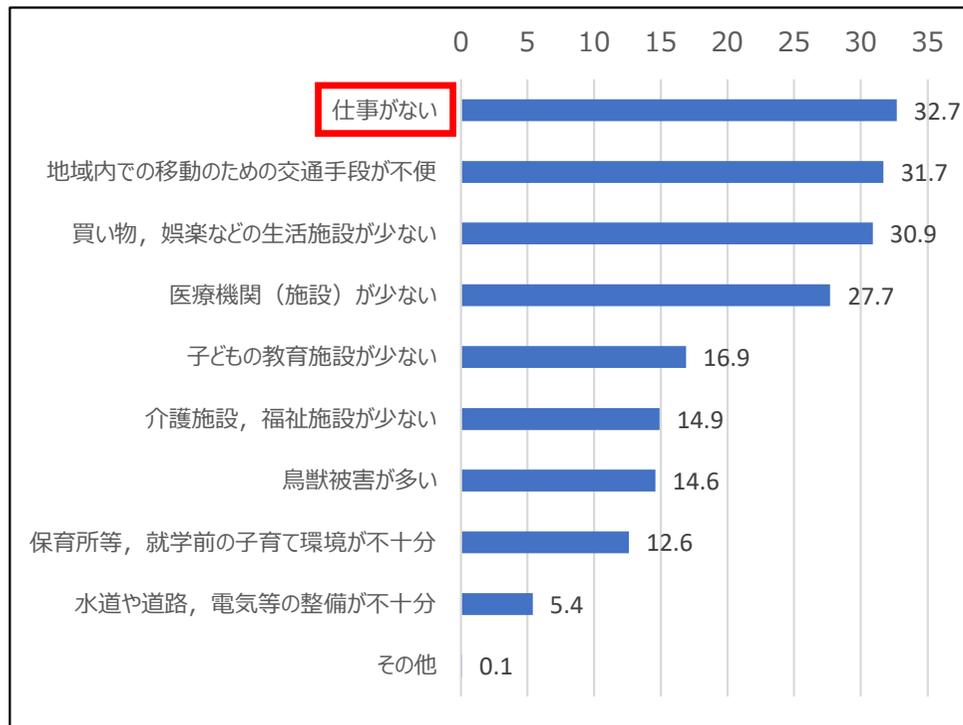
多様な文化の喪失
歴史・自然環境をベースに築いてきた文化的多様性の喪失

※農業・農村の多面的機能は貨幣価値で算出可能なものだけで年間約8兆円

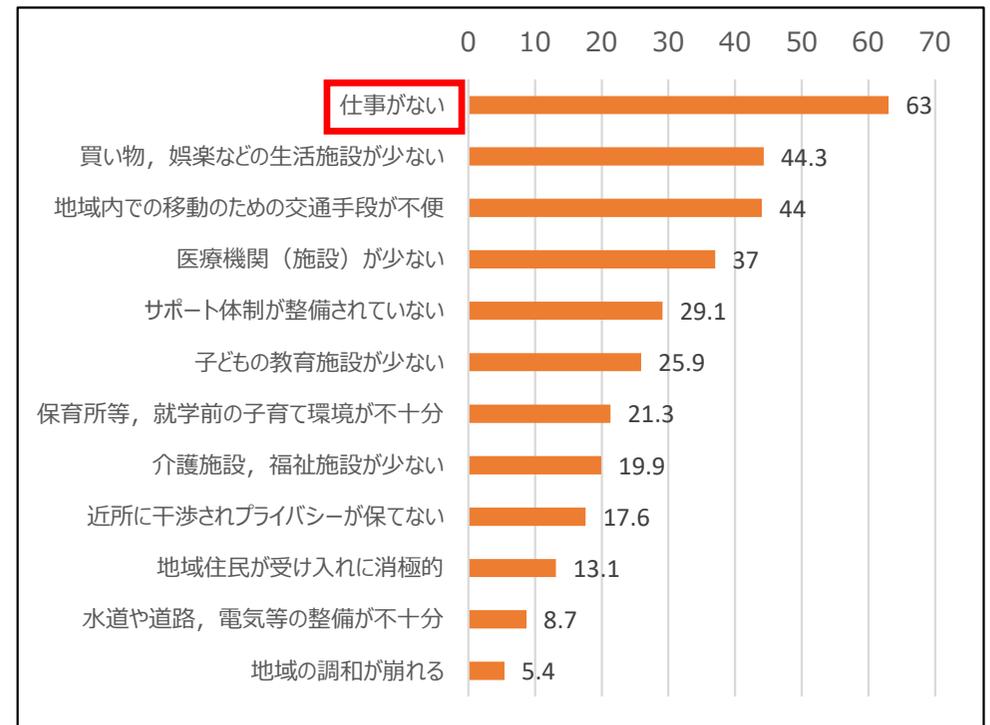
過疎化を食い止めるには

農山漁村地域での生活で困るのは「仕事がない」こと

（農山漁村地域住民に対し）農山漁村地域での生活で困っていることは何か。



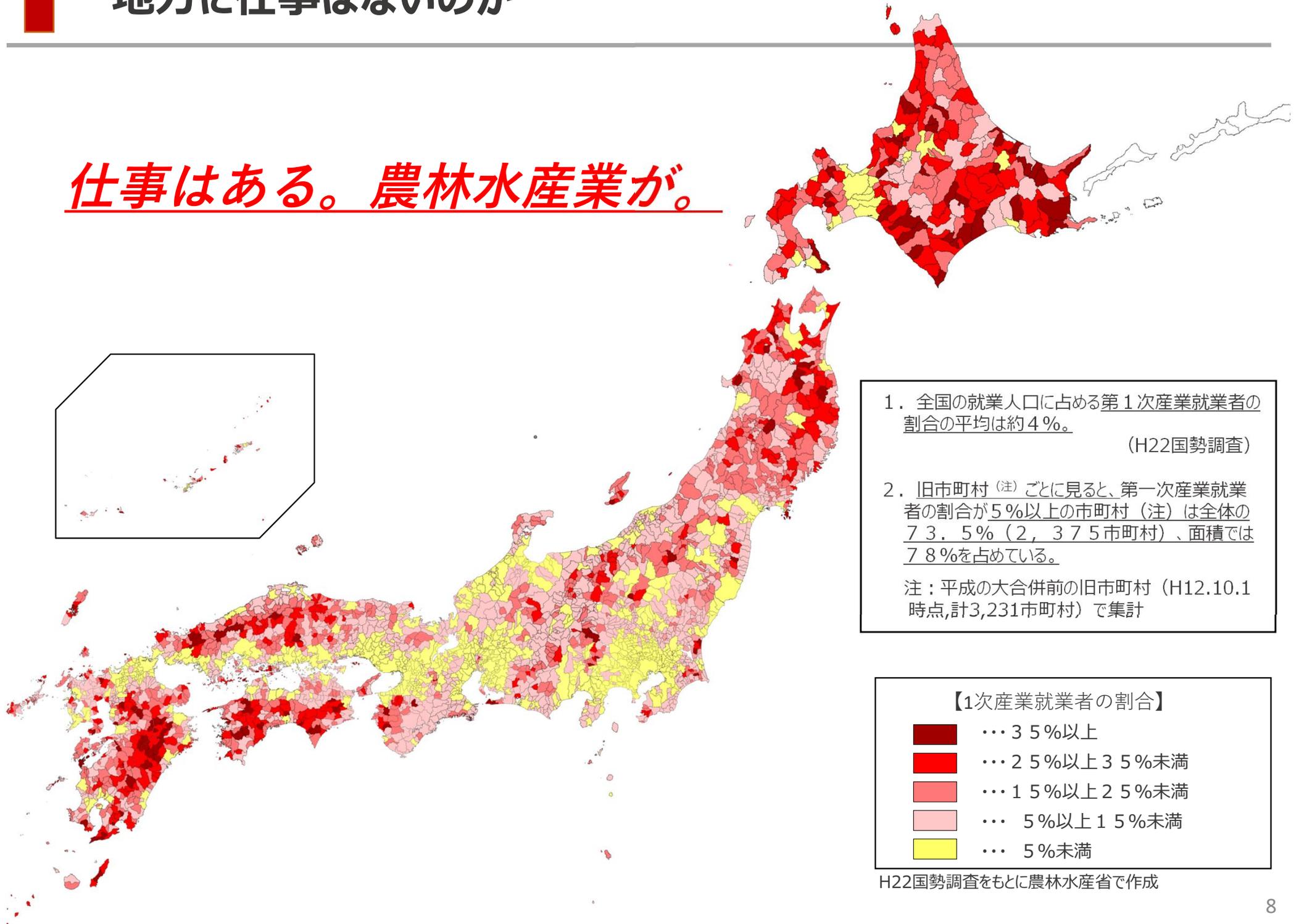
（農山漁村地域住民に対し）都市住民が農山漁村地域に定住する際の問題点は何か。



※資料：平成26年6月農山漁村に関する世論調査（内閣府）
※それぞれ複数回答可、総回答者数700人

地方に仕事はないのか

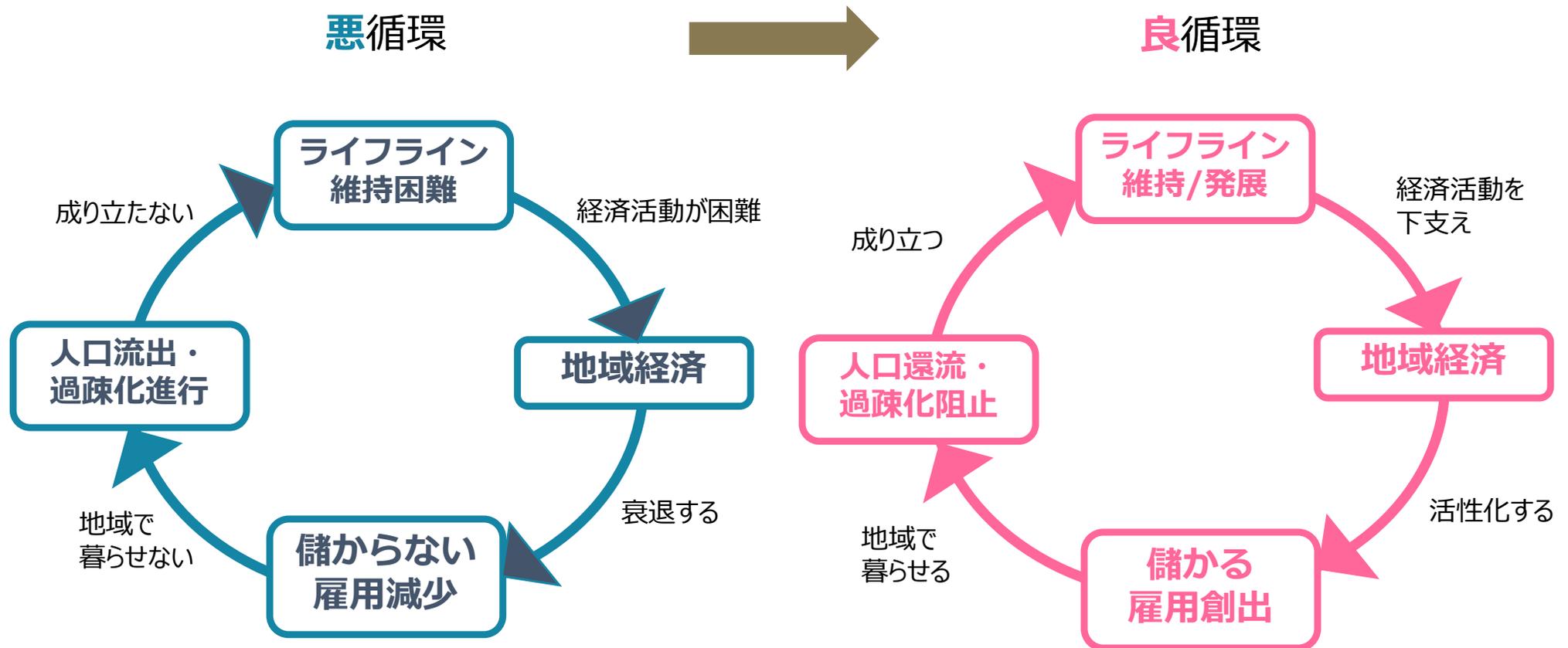
仕事はある。農林水産業が。



問題は魅力的な就業先ではないこと

問題は、地方の主要産業である農林水産業（及び食品関連産業）が、地方居住者の魅力的な就業先として機能していないこと。

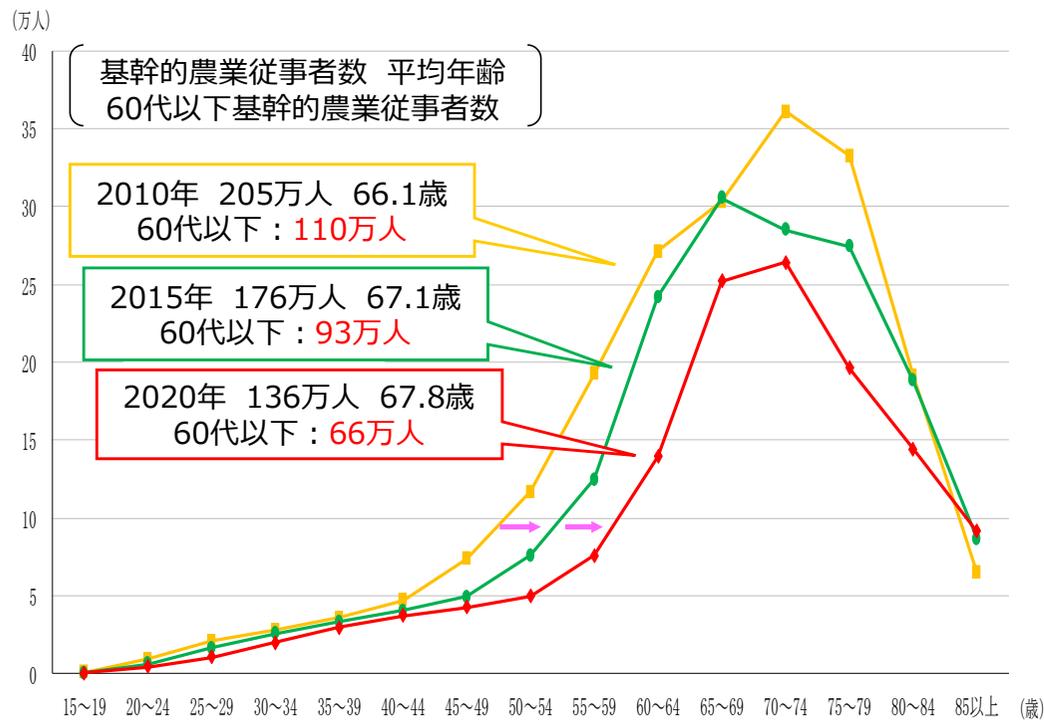
➡ 地方居住者の魅力的な就業先として機能させたい



農林水産業の課題：高齢化

平均年齢68.4歳。高齢化が主要国と比較しても突出。
持続的に産業として発展させるためには、若年層の参入が必要。

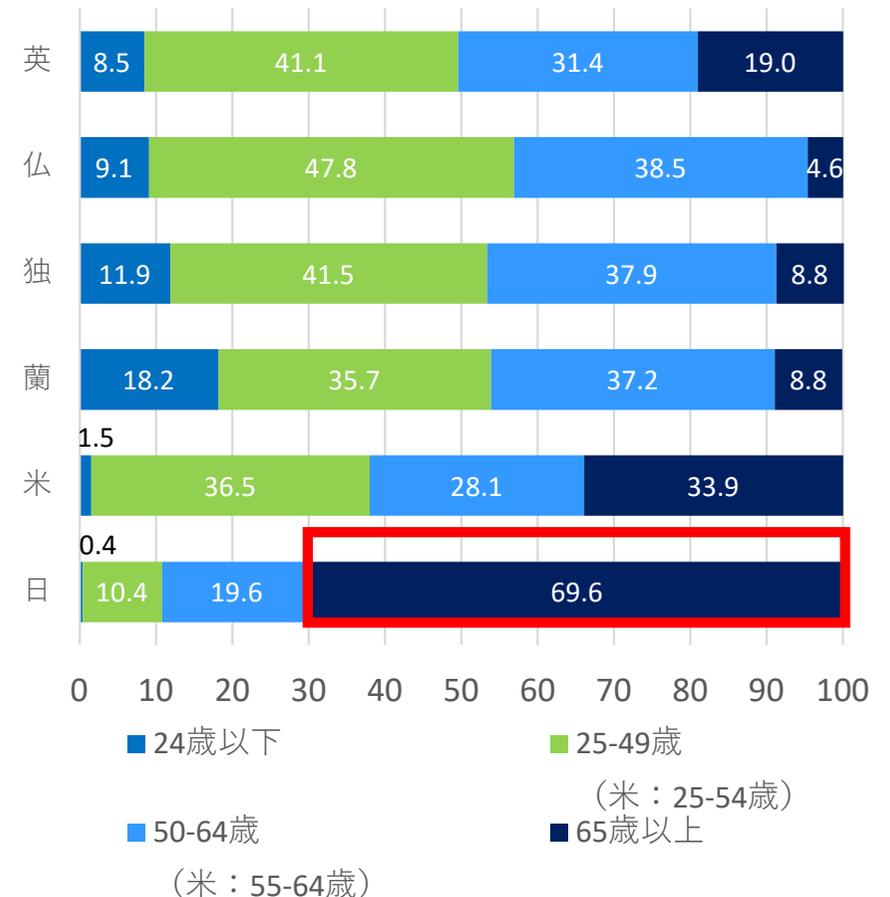
○基幹的農業従事者の年齢構成



資料：農林水産省「農林業センサス」(組替集計)

基幹的農業従事者とは、農業就業人口(自営農業に主として従事した世帯員)のうち、
 ふだんの仕事として主に自営農業に従事している者

○各国の農業従事者の年齢構成

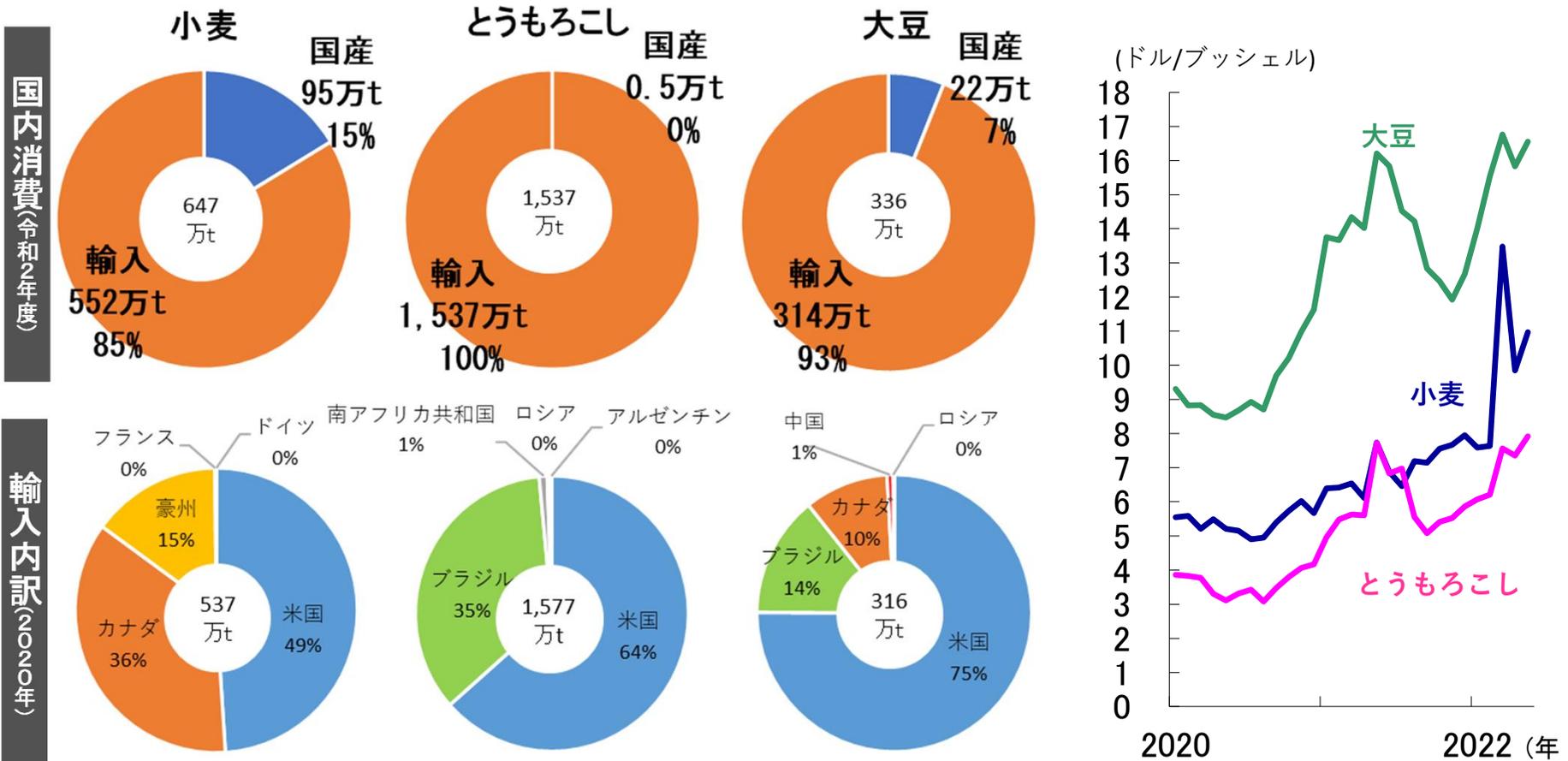


【資料】

英は、EUROSTAT (2019) : 農業に従事した世帯員
 仏独蘭は、EUROSTAT (2020) : 農業に従事した世帯員
 米は、米国農務省「2017年農業センサス」
 : 農業に従事した世帯員
 日は、農林水産省「農林業センサス」(令和2年)
 : 基幹的農業従事者

日本の食の課題：輸入だけで大丈夫？

米以外の穀物は大きく**輸入に依存**。一方で、**気候変動**や**新興国の輸入需要の増加（食料争奪戦）**、**ウクライナ情勢**により、相場は**高騰**

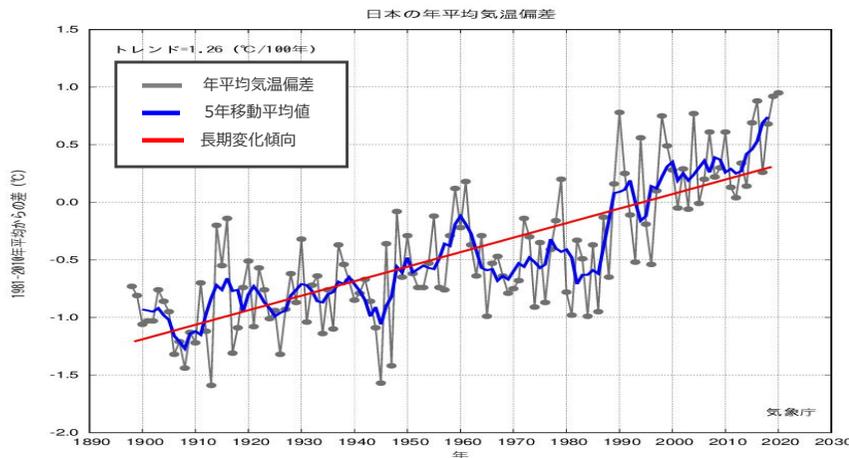


注1：主な用途は、小麦は食糧用、とうもろこしは飼料用、大豆は油糧用である。
 注2：国内消費は、農林水産省「食料需給表」（令和2年度）、国産とうもろこし（飼料用のみ）の値は農林水産省調べ（令和2年度）。
 輸入内訳は、財務省「貿易統計」（2020年）を基に農林水産省にて作成。
 注3：小数点以下四捨五入のため、合計値が合わない場合がある。
 注4：単純化のため輸出、在庫分は捨象し、国内消費=国内生産+輸入と仮定。
 注5：国内消費における国産、輸入については、食料自給率算定方法に従い、加工品も原料換算して含めた（例：ビスケットに含まれる小麦分を小麦としてカウント）値としている一方、輸入内訳については、加工品の原料分は含まない値である。

日本の食の課題：地球環境の変化

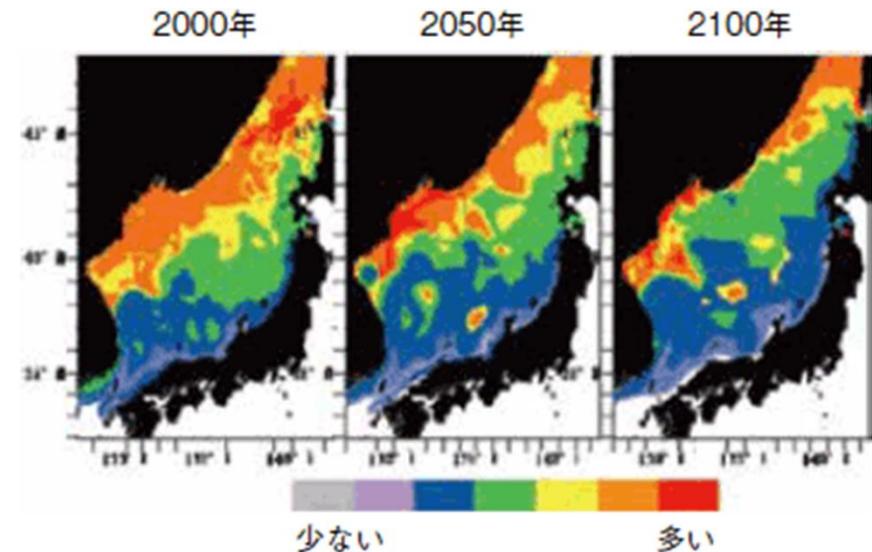
- 日本の年平均気温は、**100年あたり1.26°C**の割合で上昇。
2020年の日本の年平均気温は、統計を開始した1898年以降**最も高い値**。
- 農林水産業は気候変動の影響を受けやすく高温による**品質低下**などが発生。

■ 日本の年平均気温偏差の経年変化



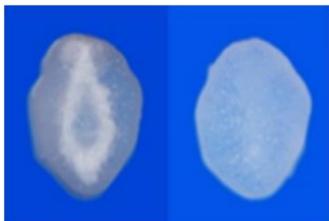
年平均気温は長期的に上昇しており、特に1990年以降、高温となる年が頻出

■ 温暖化による水温予測結果を用いたスルメイカの分布密度予測図



■ 農業分野への気候変動の影響

- ・ 水稲：高温による品質の低下
- ・ リンゴ：成熟期の着色不良・着色遅延



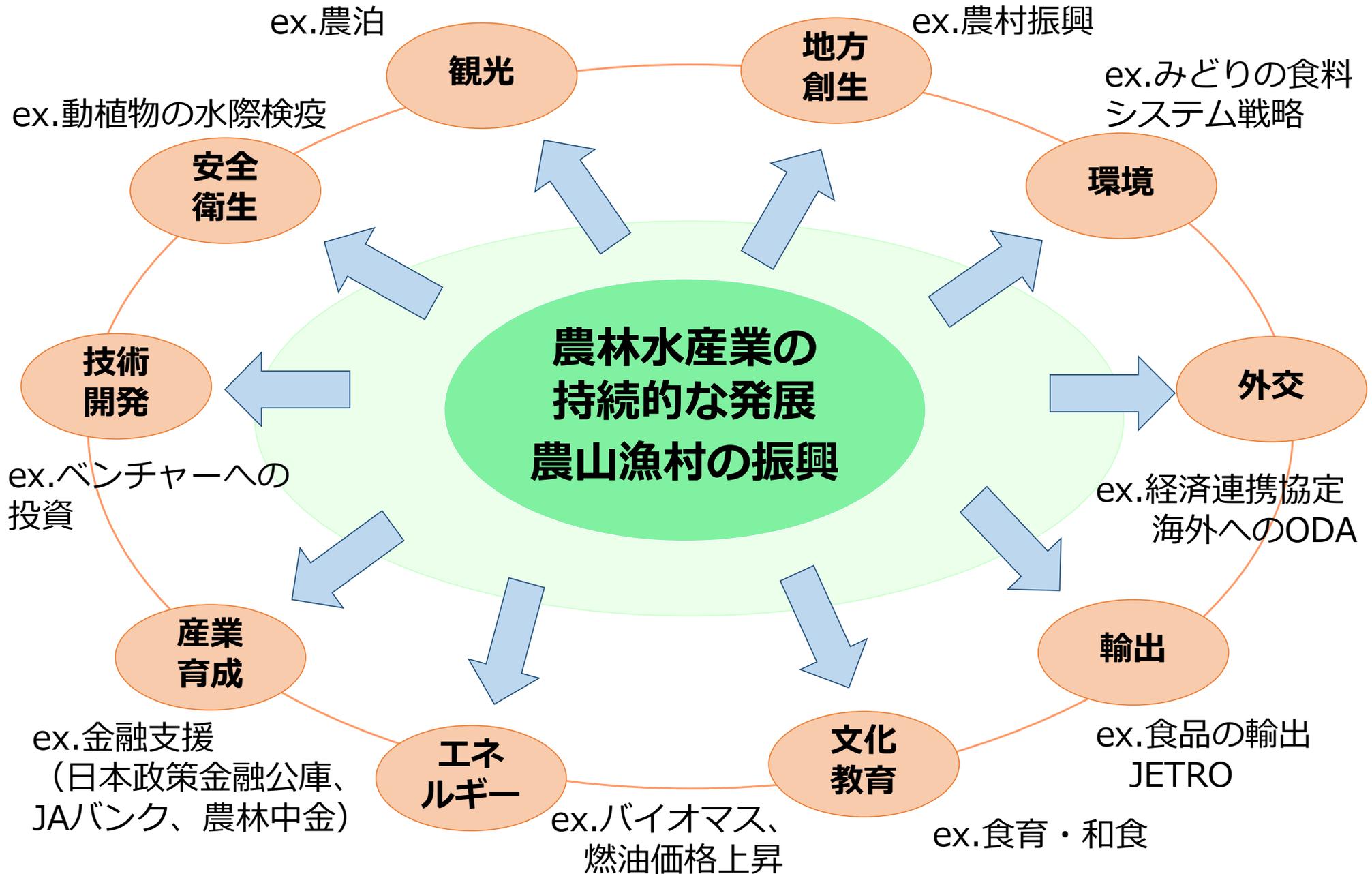
白未熟粒(左)と正常粒(右)の断面



農林水産省ビジョン・ステートメント

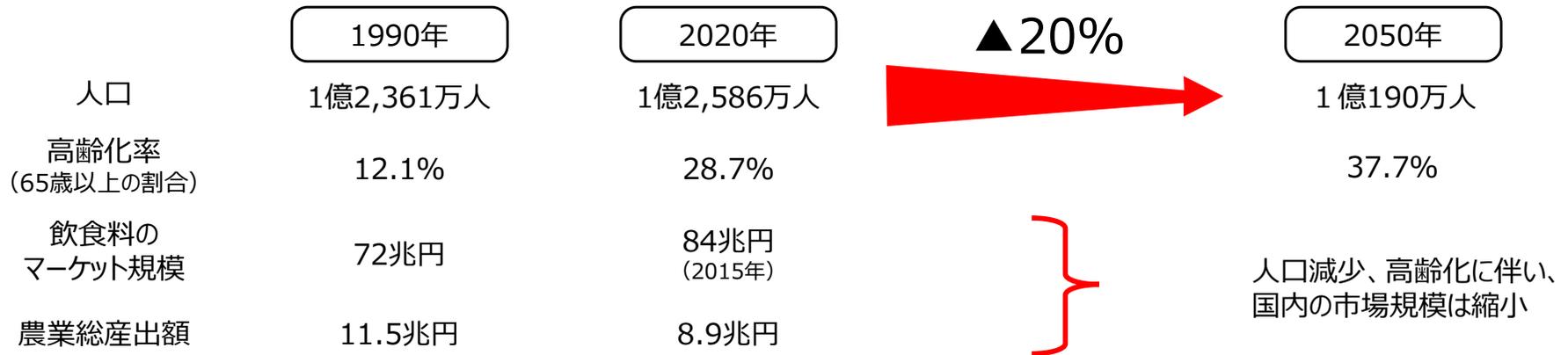
わたしたち農林水産省は、
いのち
生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、
常に国民の期待を正面から受けとめ
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。

「食」と「環境」を未来に継承するために ～1次産業を核とした多様なフィールドと、豊富な政策ツール～



(前提として) 国内市場の変化

- 国内の市場規模は、人口減少や高齢化に伴い、縮小。
- 急速な需要の減少が、日本の農林水産業に大きな影響を与えることは不可避。



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」
農林水産省「農林漁業及び関連産業を中心とした産業連関表（飲食費のフローを含む。）」、「生産農業所得統計」

○一人当たり食料支出額（単位：%）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
合計	100	103	105	108	112	116
生鮮食品	100	99	95	93	91	89
加工食品	100	105	110	117	124	132
外食	100	104	106	108	110	113

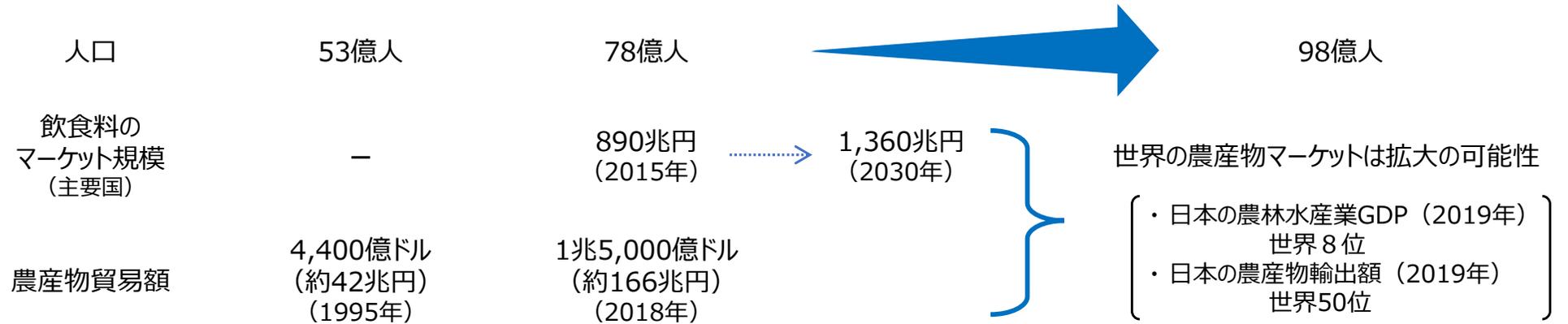
○食料支出総額（単位：%）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
合計	100	101	100	100	99	98
生鮮食品	100	97	91	85	80	75
加工食品	100	103	105	107	109	111
外食	100	102	100	99	97	95

資料：農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計」（2019年版）

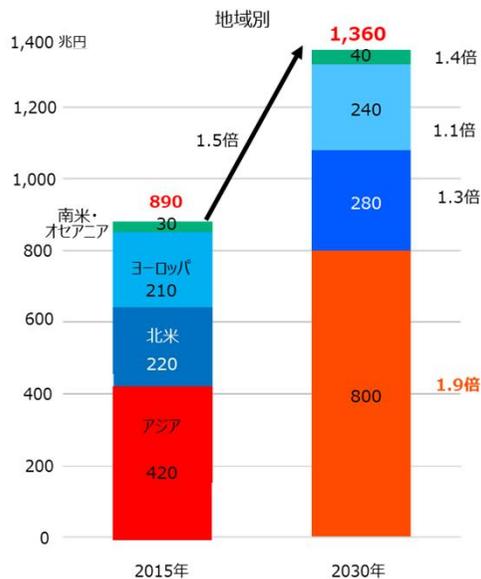
(前提として) 海外のマーケットを取り込んでいくことが重要。

- 世界の農産物マーケットは、人口の増加に伴い、拡大する可能性。
- 農林水産業の生産基盤を維持・強化し、農林水産物・食品の輸出促進により世界の食市場を獲得していくことが重要。



資料：国際連合「世界人口予測・2017年改訂版」、農林水産政策研究所「世界の飲食料市場規模の推計」、FAO「世界農産物市場白書 (SOCO) : 2020年報告」

○世界の飲食料市場規模



※グラフの数値は四捨五入して表示してある。

○国別・部門別の飲食料市場規模

単位：兆円

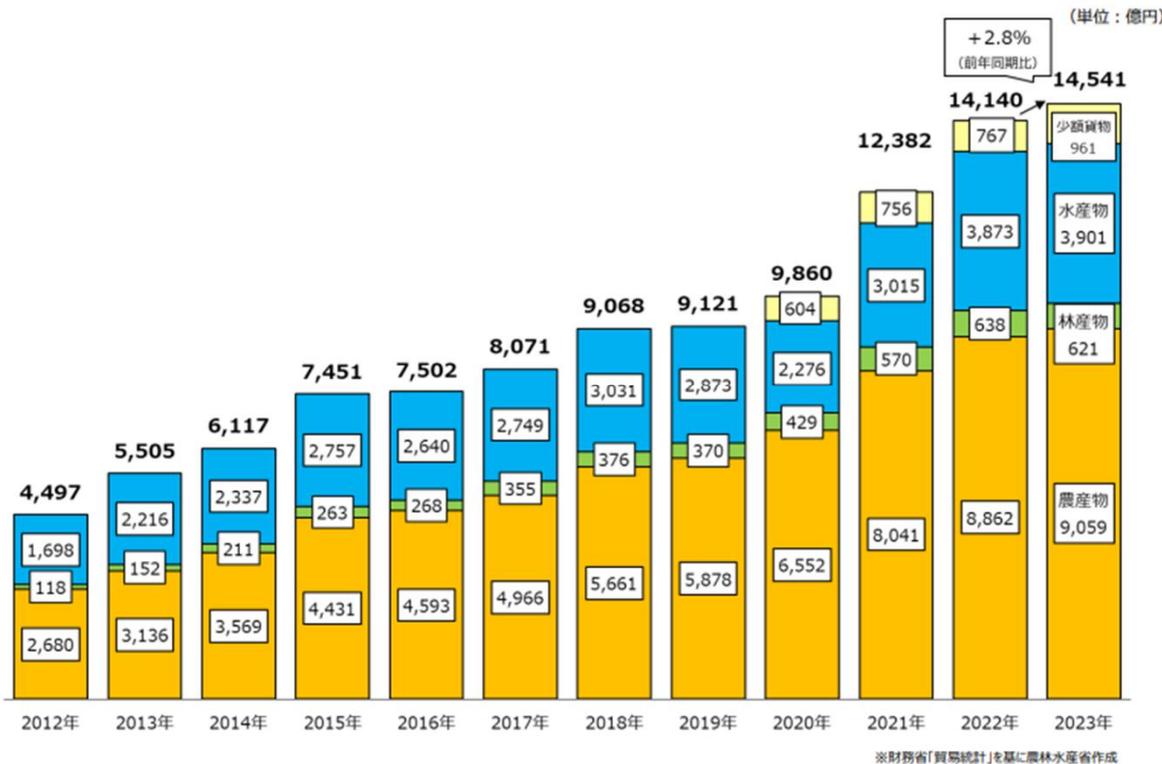
	2015年				2030年			
	生鮮品	加工品	外食	合計	生鮮品	加工品	外食	合計
アジア	221	146	57	424	409	292	93	794
北米	47	93	83	223	55	105	125	284
ヨーロッパ	53	97	60	211	62	105	75	242
南米・オセアニア	12	12	9	32	15	16	14	45
34か国・地域計	333	348	210	890	541	518	306	1,364

資料：農林水産政策研究所「世界の飲食料市場規模の推計」

農林水産業の持続的な発展：輸出促進

近年急速に増加。2021年 1兆円目標を突破！
2030年輸出額 5兆円の目標達成を目指す。

○農林水産物・食品の輸出額



○諸外国の農産物・食品の輸出割合

(億ドル)

国名	生産額 (農産物・ 食品製造業)	輸出額 (農産物・ 加工食品)	輸出割合
アメリカ	12,335	1,442	12%
フランス	2,591	730	28%
イタリア	2,302	485	21%
イギリス	1,548	286	18%
オランダ	1,066	1,018	95%
日本	4,725	84	2%

注：日本以外の諸外国の林業・漁業生産額については、比較可能な統計がないことから、生産額、輸出額とも含めていない。日本のみ農林水産物として算出。

資料：FAOSTAT, 三井物産戦略研究所, Global Trade Atlas, 生産農業所得統計, 工業統計, 林業産出額, 漁業産出額, 農業・食料関連産業の経済計算

輸出のための取組

○ 我が国においても、品目団体の組織化や輸出先国における専門的・継続的な支援体制の強化に着手。

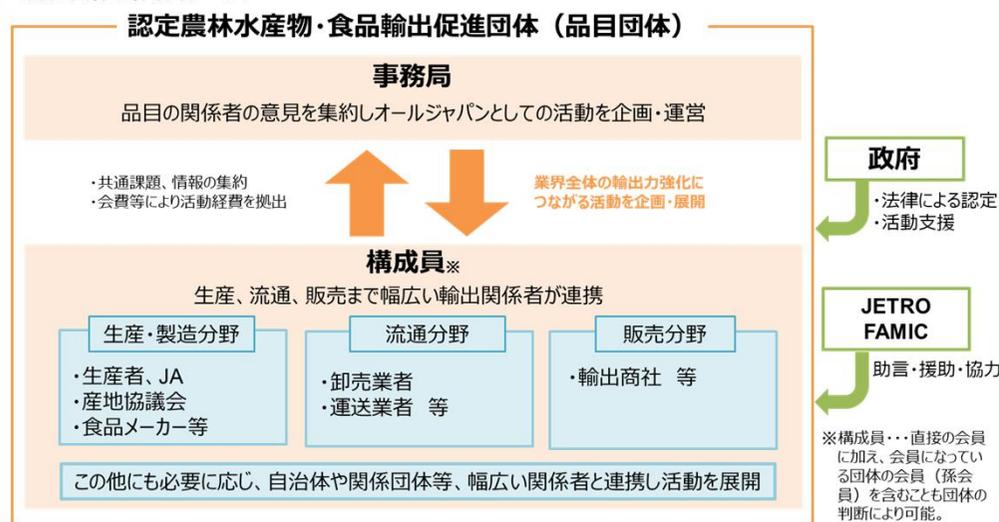
品目団体の組織化及びその取組の強化

輸出促進法による品目団体の認定制度を創設し、以下の取組を推進

- ① 輸出先国・地域の市場等の調査やジャパンブランドを活用した広報宣伝等の業界一体での需要開拓
- ② 輸出拡大に効果的な業界規格の策定
- ③ 会員等を対象とする任意のチェックオフなど自主財源の増加

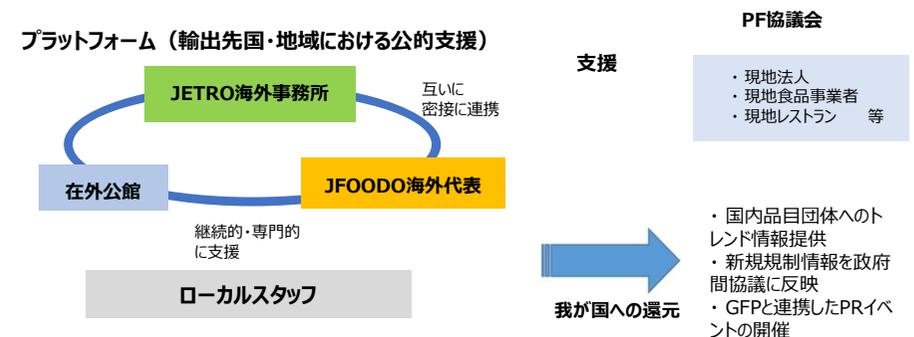
- 他の先進国並の輸出促進の体制を構築
- 日本の強みがある品目をオールジャパンで販売する体制を整備

<認定団体の体制イメージ>



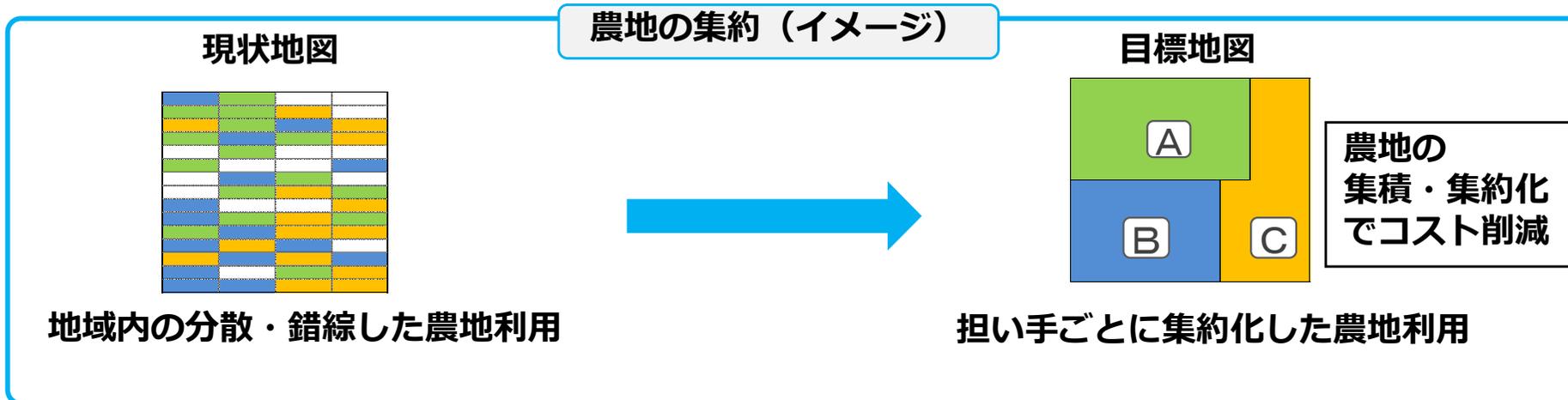
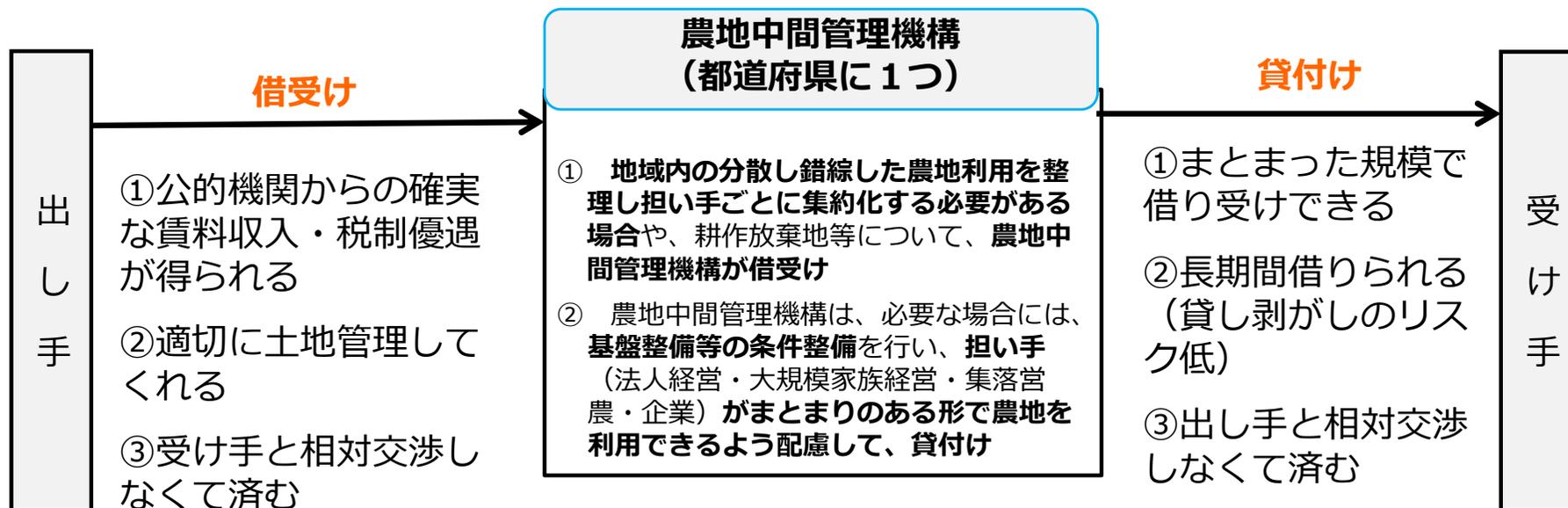
輸出先国・地域における専門的・継続的な支援体制の強化

- 主要な輸出先国・地域において、在外公館とJETRO海外事務所等を主な構成員とする輸出支援プラットフォームを設立
- 食品産業等に精通した人材をローカルスタッフとして速やかに雇用・確保し、輸出先国で輸出事業者を包括的・専門的・継続的に支援
- 輸出支援プラットフォーム設置都市
米国（ロサンゼルス、ニューヨーク）、
EU（パリ）、
ベトナム（ホーチミン）、シンガポール（シンガポール）、
タイ（バンコク）、中国（上海、北京、広州、成都）、
香港（香港）、台湾（台北）



農林水産業の持続的な発展：農地集積による大規模化・コストダウン

- 離農者などは「**農地中間管理機構**」（**農地バンク**）に農地を預け、地域の話合いに基づき市町村が作成する「**目標地図**」に沿って、農地バンクが企業を含む「**担い手**」に一括で貸出し。



農林水産業の持続的な発展：テクノロジー活用

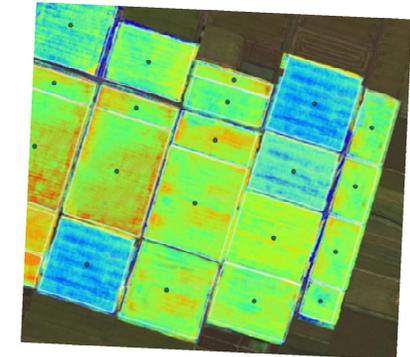
AIやロボット等を活用し、生産性の向上を図る



無人作業中の自動運転田植機



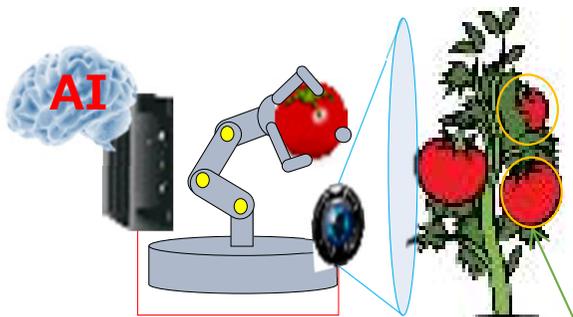
水稲の葉色マップ例



薄 ← 葉色 → 濃

(不良 生育状況 良)

リモートセンシングによる農場の可視化



情報処理量を減らせるので速い

葉や茎をよけることを学習するので獲れる

AIを活用した野菜収穫ロボットの開発

農林水産業の持続的な発展：みどりの食料システム戦略

みどりの食料システム戦略（概要）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～
Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月
農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画



「Farm to Fork戦略」(20.5)
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大



「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

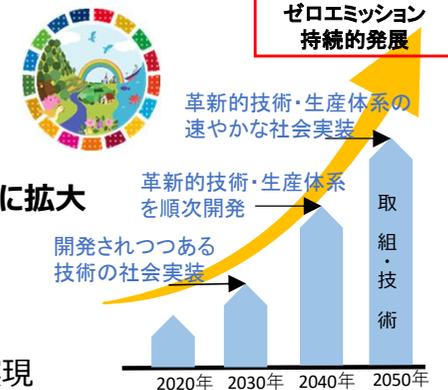
**農林水産業や地域の将来も
見据えた持続可能な
食料システムの構築が急務**

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農薬への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現



戦略的な取組方向

- 2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
- 2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）
- ※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。
- ※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。

期待される効果

経済

持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会

国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

環境

将来にわたり安心して 暮らせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

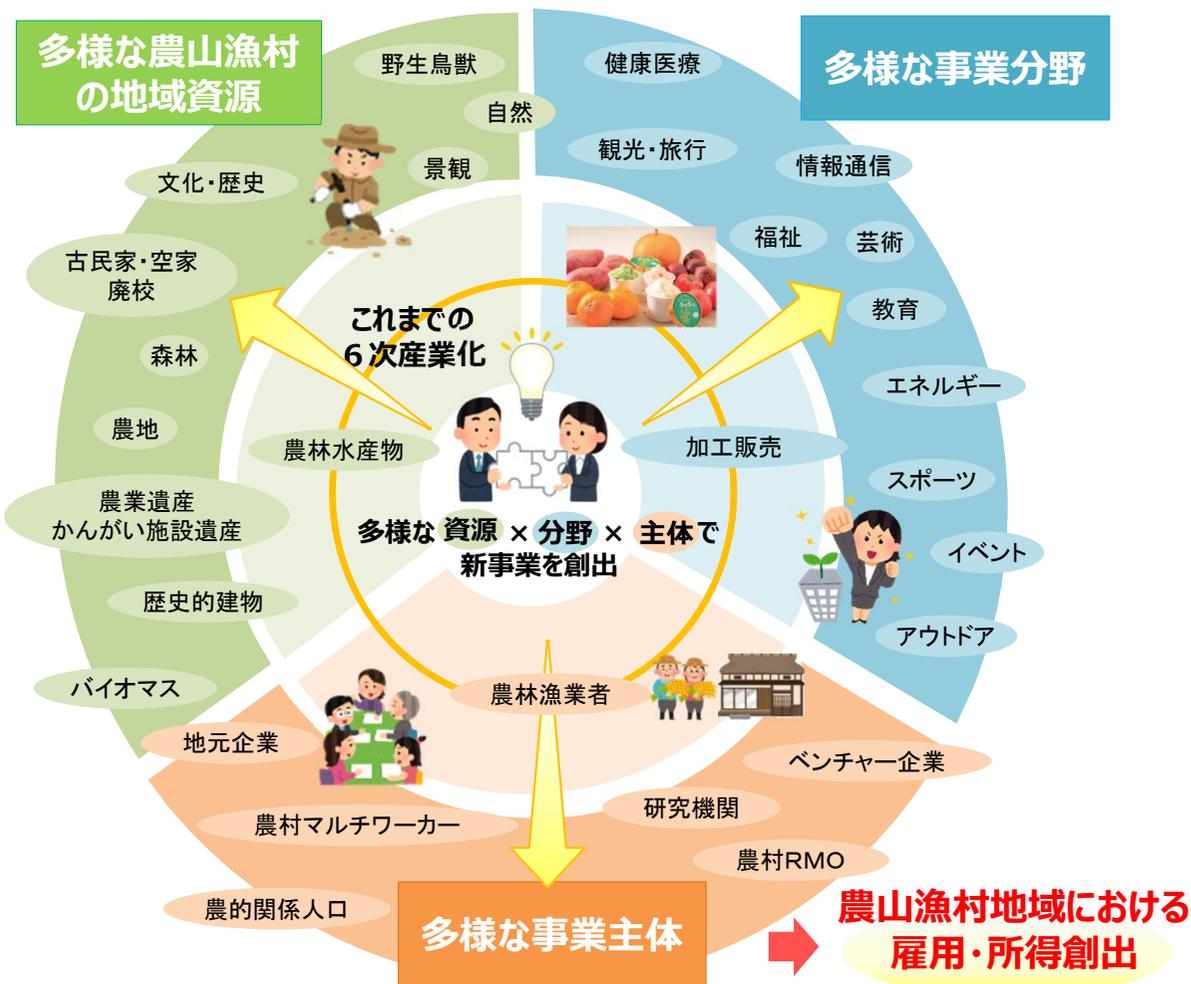
アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

農山漁村の振興：農山漁村発イノベーション

- 「農山漁村発イノベーション」とは、従来の6次産業化を発展させて、地域の文化・歴史や森林、景観など農林水産物以外の多様な地域資源も活用し、農林漁業者はもちろん、地元の企業なども含めた多様な主体の参画によって新事業や付加価値の創出を図る取組。

農山漁村発イノベーション

- 農山漁村のあらゆる地域資源をフル活用した取組を支援
- 他産業起点の取組など他分野との連携を一層促進



農山漁村発イノベーションの事例

<例1>

「農産物、景観」 × 「加工販売、観光・旅行」
× 「農林漁業者、地元企業」

株式会社ワカヤマファーム
(栃木県宇都宮市)

タケノコや栗の加工販売に加え、美しい竹林景観を活かして、映画のロケ地や観光商品として活用。



<例2>

「森林」 × 「スポーツ」 × 「ベンチャー企業」

株式会社フォレストリー
(栃木県壬生町)

森林をフィールドとしたサバイバルゲーム事業を行うとともに、参加料の一部を森林所有者にも還元。



<例3>

「農産物」 × 「加工販売、観光旅行、教育」
× 「農林漁業者、地元企業」

有限会社 シュシュ
(長崎県大村市)

6次産業化による農産加工品の製造・販売のほか、食育体験や収穫体験など豊富なメニューの取組を展開。



CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

農林水産省の職場環境

04

近畿農政局若手職員紹介

農林水産省の組織

▼農林水産省は、本省（約5千人）と全国の各地方ブロック機関（約1万4千人）で構成され、総定員数は約1.9万人です。

（主な機関）

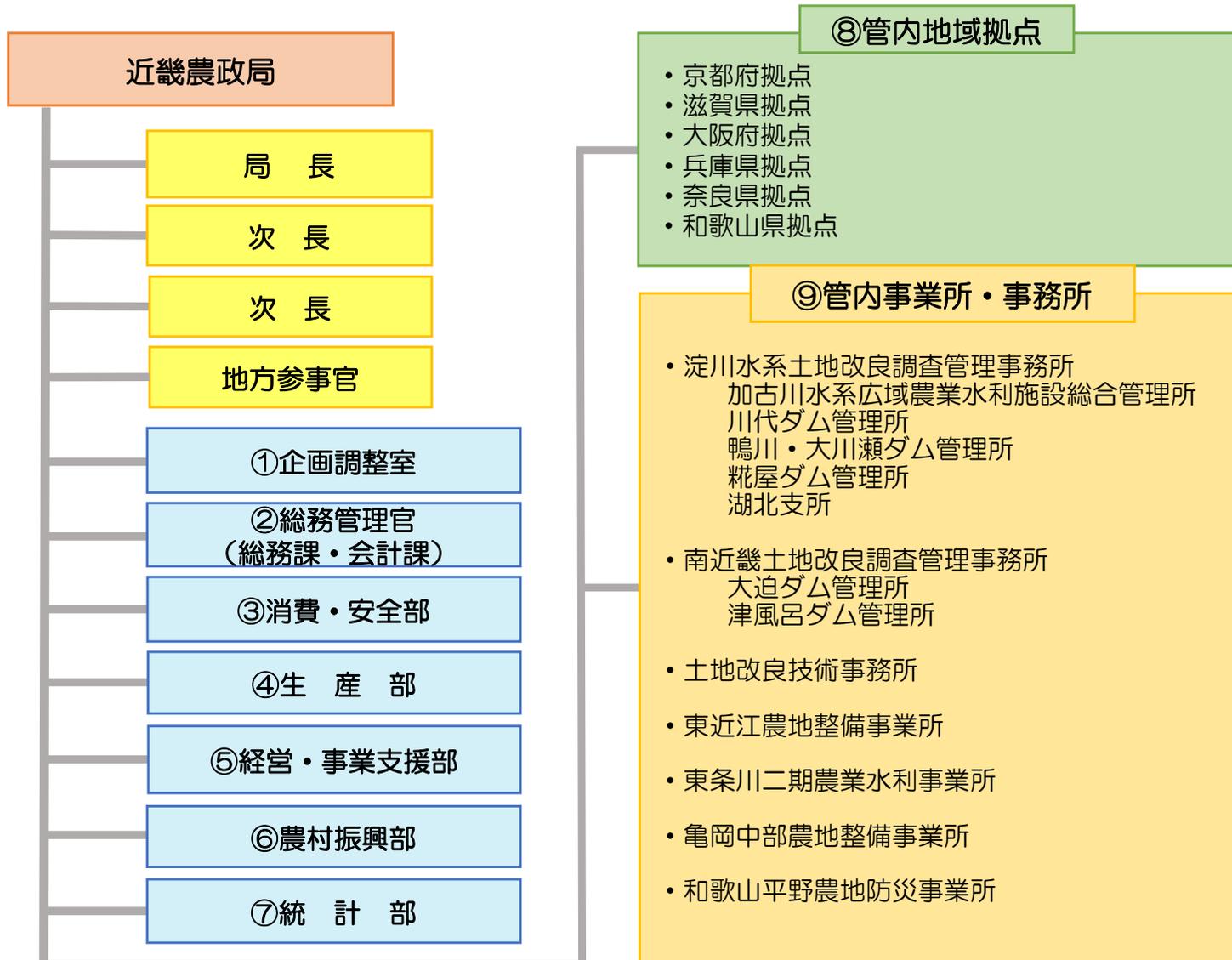
- 本省…農林水産政策の企画立案
- **地方農政局…農業政策の実施・周知・把握**

※その他（森林管理局、植物防疫所、動物検疫所、漁業調整事務所）



近畿農政局の組織

組 織 図



近畿農政局の配属例①

①企画・広報業務

(企画調整室)



- ・ 局の窓口として、外部からの依頼等を適切な部署に振り分け、局内の円滑な業務遂行に貢献する。
- ・ 近畿農政局のHPの運営に関する事務を行う。

②人事・採用業務

(総務課人事第1係)



- ・ 人事異動に伴う辞令を作成、農林水産省本省や他の地方農政局との人事交流の連絡等を行う。
- ・ 新規採用に向けた業務説明会の企画や、開催に際しての連絡・調整業務、官庁訪問等の採用事務を実施する。

②予算・会計業務

(会計課)



- ・ 事務費の所要額を精査し、本省を通じて予算要求を行う。
- ・ 予算が、適切に執行されるようその執行状況を管理する。
- ・ 会計検査院の行う検査に関する連絡調整に関する事務を行う。

③食品表示監視等

(消費・安全部)



- ・ 食品表示等についての監視、疑義情報受付立入検査など

④米政策の推進等

(生産部)



- ・ 水田農業の高収益化の推進 (生産者と実需者のマッチングなど)
- ・ 子ども食堂・子ども宅食への政府備蓄米の無償交付 (令和6年9月1日より各地域拠点での申請受付開始)

⑤農地関係業務

(経営・事業支援部)

- ・ 担い手への農地集積・集約化の加速化 (府県の取組のフォローアップなど)

⑤輸出関係業務

(経営・事業支援部輸出促進課)



- ・ 農林水産物及び食品の輸出に関する相談受付、情報提供
- ・ 輸出証明書の審査・発行
- ・ 地理的表示 (GI) 製品の登録に向けた手続き

近畿農政局の配属例②

⑤食文化の発信

(経営・事業支援部 食品企業課)



- ・近畿の特色ある食や食文化を発信するため、食・食文化プログラム（関西食の「わ」プロジェクト）の取組推進

⑥農山漁村の活性化

(農村振興部)



- ・農山漁村が持つ豊かな地域資源を活用した新事業や付加価値の創出、観光・福祉・教育等と連携した取組等への支援（農泊、農福連携）

⑦統計業務の推進

(統計部)

- ・「地域の農業を見て知って活かすDB」の地方公共団体等に対する利用普及（相談、技術的指導、問い合わせ対応）



⑧現場と地域を結ぶ業務

(管内 地域拠点)



- ・府県・市町村・農業団体等への政策の説明、意見聴取、課題への対応
- ・6次産業化の推進、経営所得安定対策の実施、コメ政策や水田フル活用の推進等

⑨庶務・経理業務

(管内国営事業（務）所 庶務課)



- ・国営事業に関する入札関係事務
- ・物品・役務等の調達
- ・所属職員に関する庶務関係事務

⑨用地関係業務※

※主に農村振興行政系

(管内国営事業（務）所 用地課)



- ・国営事業に関する地元説明会の開催
- ・地権者の方への補償内容の説明
- ・土地評価・補償額の算定
- ・境界立会、補償物件の調査等

採用区分の違い（①行政系、②農村振興行政系）

※行政系には2つの採用区分があります

- ▼ 行政の実施業務・運営管理業務を担当する**行政系**と土地改良事業における用地・管理業務を中心に担当する**農村振興行政系**のいずれかの区分での採用となります。
- ▼ いずれのキャリアパスであっても、必ず本局以外の官署への異動があります。
(ただし、近畿管内は一部の官署を除き官署間の交通の便が比較的良好いため、官署をまたいだ異動となっても、転居されずに通勤で対応されている方も多くいらっしゃいます。)

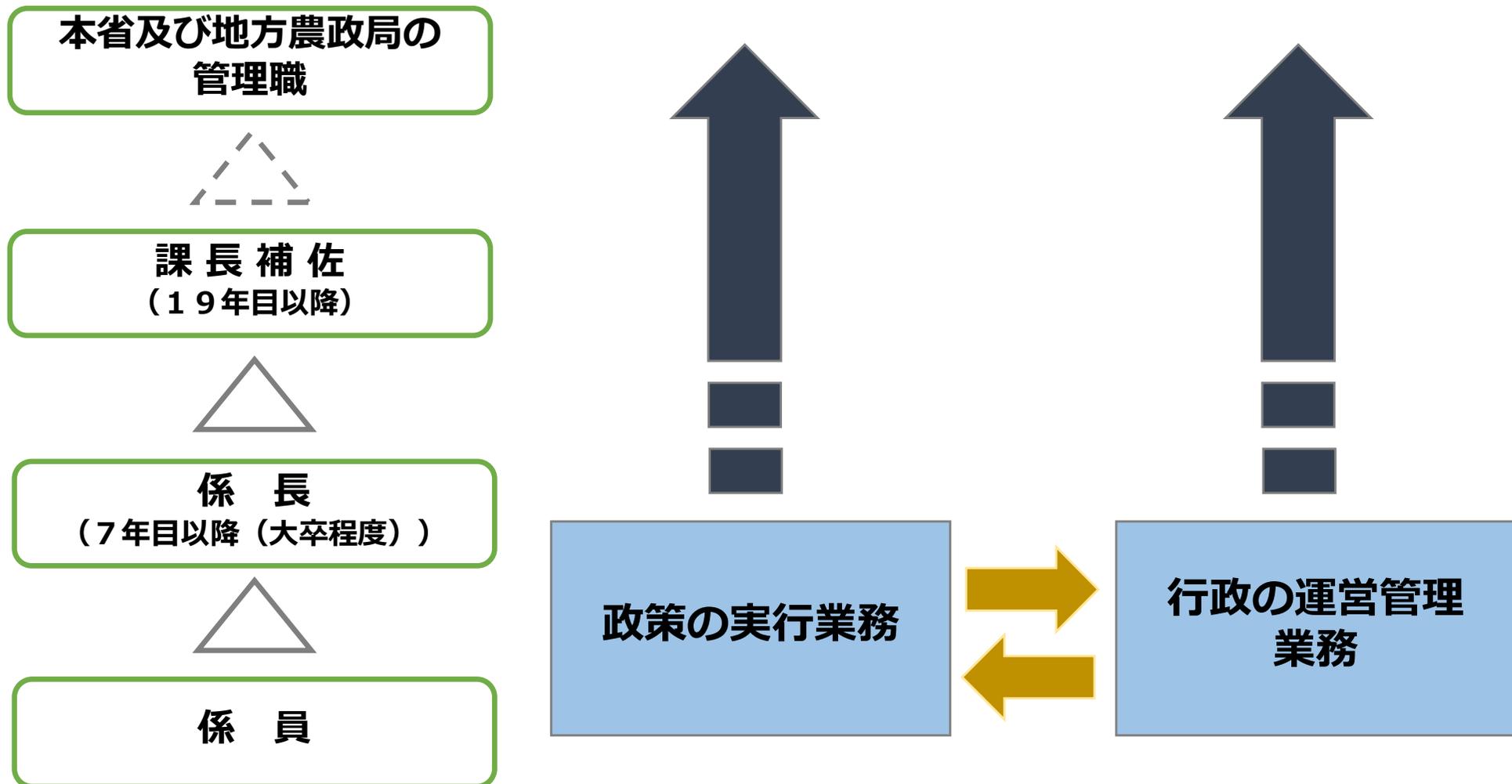
採用区分の違い

採用区分	行政系	農村振興行政系
業務内容	行政の実施業務・運営管理業務	土地改良事業における 用地・管理業務 中心
主な配属先	原則、近畿農政局管内（2府4県） ・近畿農政局本局 ・管内の地域拠点 ・管内の国営事業（務）所（庶務・経理等）	原則、近畿農政局管内（2府4県） ・近畿農政局本局 （主に 農村振興部の用地課、水利整備課等 ） ・管内の国営事業（務）所（用地等）中心

本人の適性、希望等次第で農林水産本省、他の地方農政局、他府省等の異動も可能！

キャリアパス（一般職行政（近畿農政局採用））

- ▼ 近畿農政局管内（2府4県）での異動が基本となります。ただし、一度は**本省での業務経験**をしていただきます。
- ▼ 10年目程度まで、本人の希望を踏まえた上で、概ね2年程度で様々なポストを経験していただきながら、将来的に、自分にあった分野のスペシャリストになってもらいます。



若手がどんどん行動しています

• BUZZ MAFF

霞ヶ関 初！ 官僚系 YouTuber 誕生

【設立】 2020年1月7日

【チャンネル登録者】 15万人以上

農林水産省職員自らが省公式 YouTube チャンネルで YouTuber となるなど、担当業務にとらわれず、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さや農林水産業、農山漁村の魅力を発信するプロジェクト。



近畿農政局では、局内の若手職員を中心としたチーム「となりの近畿」を結成し、近畿農業の魅力を発信しています。



現場を知る

○ 農村・企業派遣研修

農業体験や現場の声を聴くことを通じて
農業・農村の現場を肌で感じることを目的
とします。

入省2年目の職員を対象に、近畿圏内各地
の農家の元に5日間派遣し、農業者の生活に
密着し、**農作業体験の充実**を図ります。



能力を高める

○ 実務能力向上研修

農林水産行政を担うに当たり、現場
の声を踏まえた施策を企画・推進する
ため、**管内各部の幹部による講演**や、
外部講師を招いた講演などを行って
います。

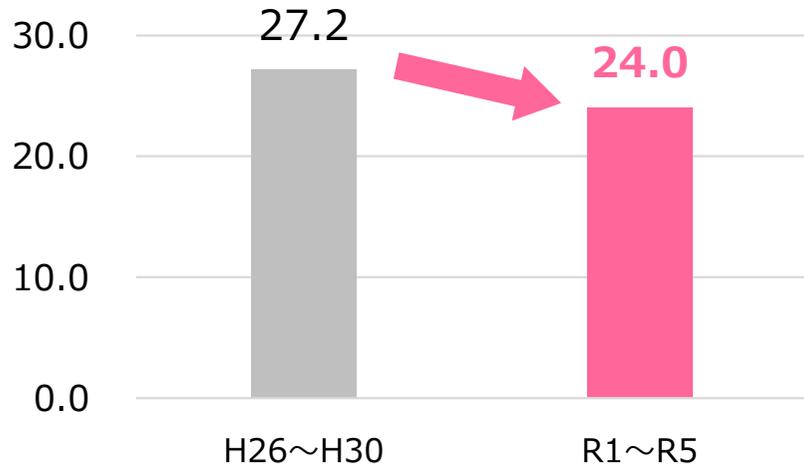
また、現場においてふさわしい礼儀
作法を身につけることを目的に、**ビジ
ネスマナー研修**も実施しています。



職員の働き方（働き方改革）

○ 超過勤務時間は減少傾向

（時間/月）



出典：農林水産省HPを基に作成

○ 職員一人当たりの超過勤務時間（一月あたり）

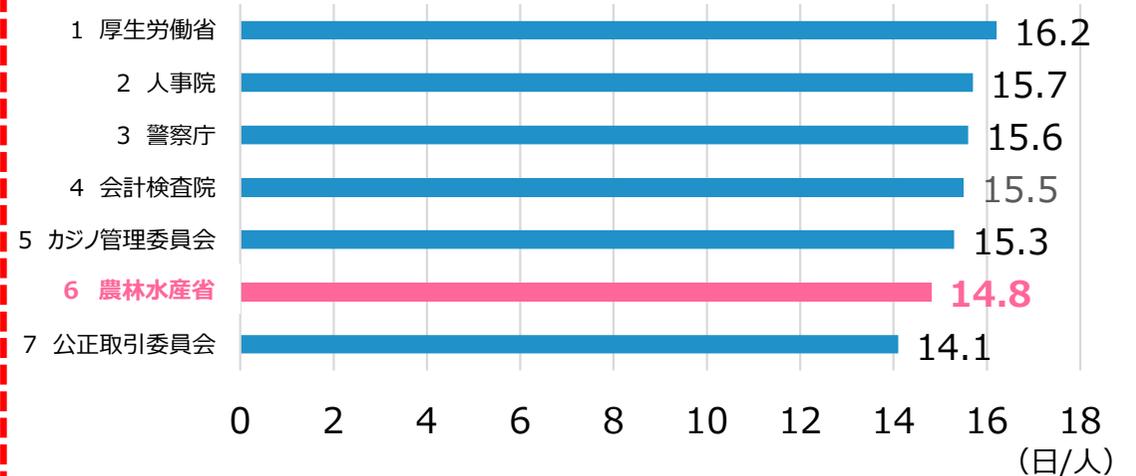
本省 （常勤職員）	22.0時間
地方機関 （常勤職員）	6.7時間
合計	10.7時間

※令和5年における職員一人当たりの平均超過勤務時間数。
出典：農林水産省HP

○ 休暇取得

一人当たりの年次休暇取得日数は、**全省庁で6番目**

年次休暇取得日数（国家公務員（行政））



出典：内閣府男女共同参画局 女性活躍推進法「見える化」サイト R4年末数値

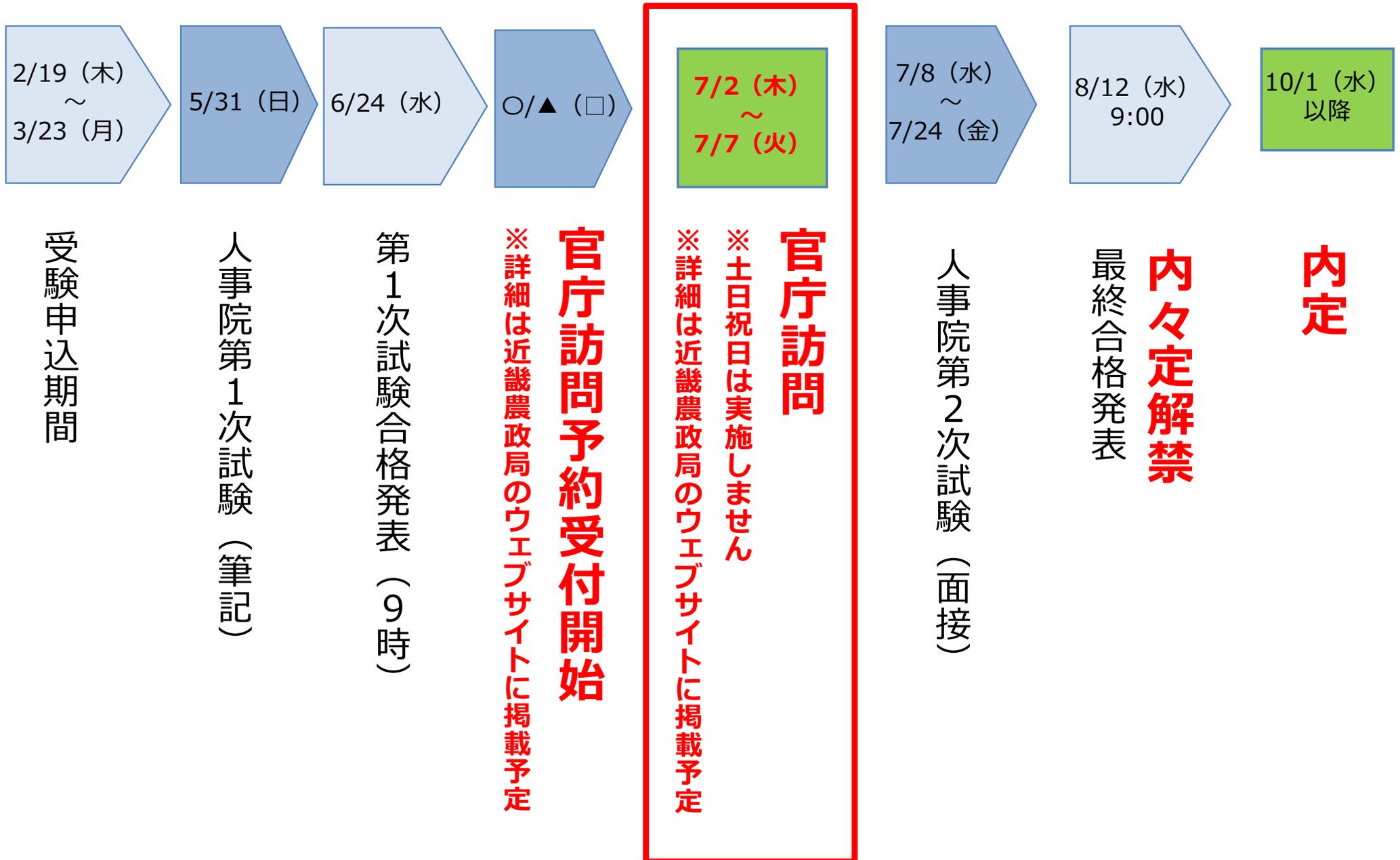
○ 多様な働き方～テレワーク等～

- ・テレワーク、フレックスタイム制度、早出遅出出勤など、ライフスタイルに合わせた勤務時間の選択が可能。
- ・令和2年度実績では、**テレワークの実施回数**が多い府省（本省）で農林水産省は**全省庁で3番目**（国家公務員テレワーク取組状況等調査より）。

働き方改革
キャラクター

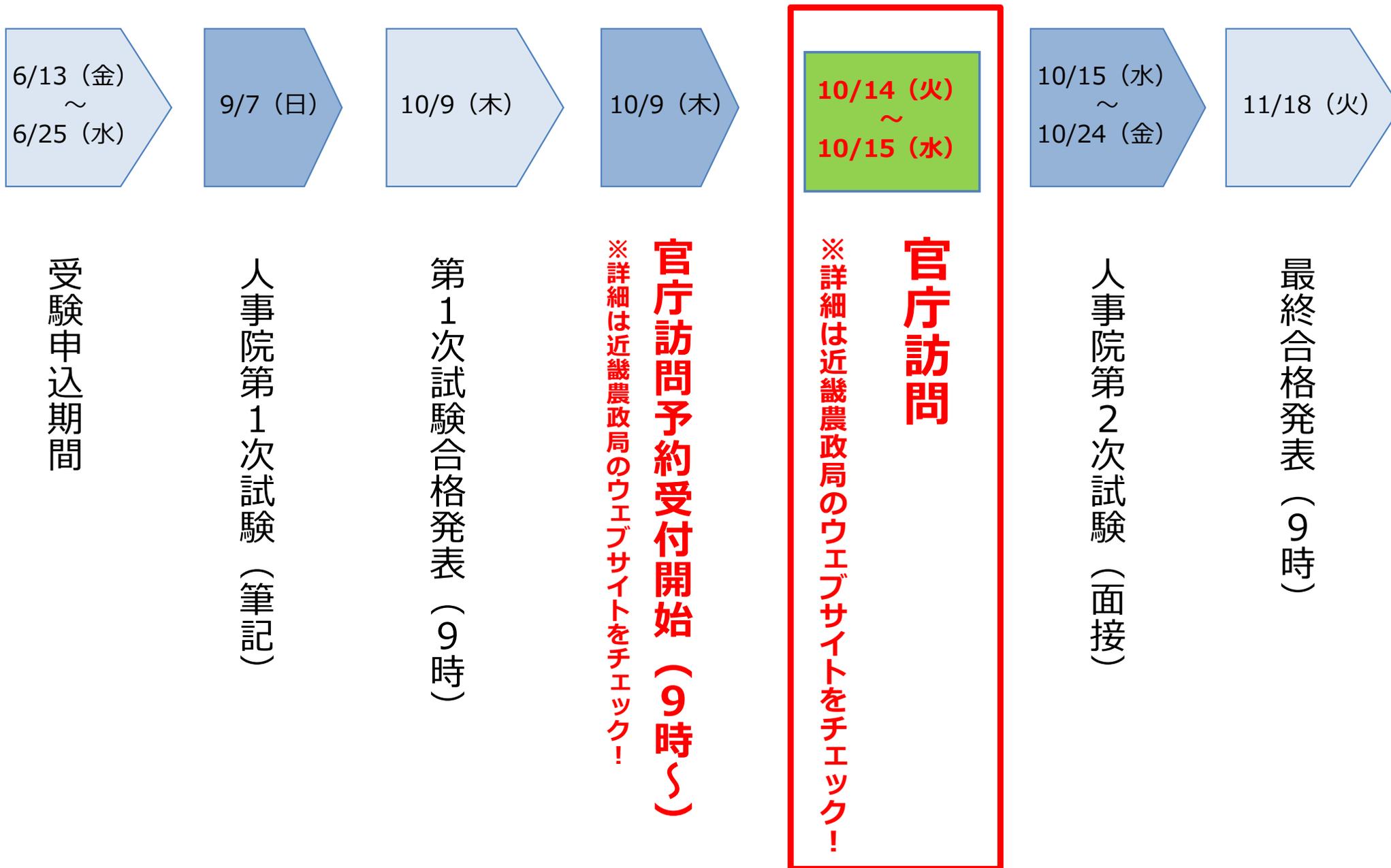


採用スケジュール（2026年度一般職試験大卒程度）



(参考) 採用スケジュール (2025年度一般職試験 (高卒者試験))

※令和7年度のスケジュールを掲載



近畿農政局採用実績（一般職（大卒程度）行政区分）

一般職（大卒程度）行政区分の採用人数は**増加傾向**にあり、近畿農政局内に年齢の近い先輩職員がいることで、**気軽に相談がしやすく働きやすい職場**になっています。

一般職（大卒程度）行政		
採用年度	採用人数 (うち女性職員)	主な配属部署
令和4年度	10 (4)	総務課、会計課、消費・安全部、生産部、 経営・事業支援部、農村振興部
令和5年度	12 (7)	企画調整室、総務課、会計課、消費・安全部、 経営・事業支援部、農村振興部
令和6年度	15 (9)	総務課、会計課、消費・安全部、生産部、 経営・事業支援部、農村振興部、統計部
令和7年度	14 (10)	企画調整室、総務課、会計課、消費・安全部、 経営・事業支援部、農村振興部、統計部
令和8年度	14 (9)	総務課、会計課、消費・安全部、 生産部、経営・事業支援部、農村振興部

大きな転換期にある**社会課題**（**食・農林水産業**）に
幅広いフィールドで確かな**貢献**ができる。

転換期にある 農林水産業

- ・今、農林水産業は課題が山積している
- ・ここから10年、20年で農林水産業は大きく変わる
- ・いつの時代になっても、**食と環境を守る仕事は決してなくなる**ない

幅広いフィールド

- ・1次産業を中心とした多様なフィールド
- ・実際に世の中を動かせる豊富なツール
- ・**ローカルからグローバルまで幅広い活躍の場がある**

確かな貢献

- ・産業（農林水産業、食品産業）を所管するからこそ、具体的な貢献ができる
- ・食という身近なものに関われる
- ・ピンチの今だからこそ、**若手がチャレンジして変革を起こせる**

CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

農林水産省の職場環境

04

近畿農政局若手職員紹介

生産部生産振興課備蓄米等振興第2係（令和6年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

公務員試験は本当に長丁場で民間就職と比べて決まる時期が遅いことが多く、やらなければならないこともたくさんあり焦る気持ちが大きいと思います。

私自身何をすべきか悩んでいたときに、数か月ごとの大まかな目標、1か月ごとの目標、1週間ごとの計画、というようにやるべきことのスケジュールを立てると先が見えやすくなりました。計画通りに進まなくても焦らず、修正しつつ少しずつ進めていくとやってきたことが積み重なって力になるのではないかと思います。自分のペースで焦らず頑張ってください！

みなさんと一緒に働くことを楽しみにしています！

～感謝の言葉をいただいたときにやりがい～

Q1 今担当している業務は？

主にお米の消費拡大に関する業務、こども食堂などに対する政府備蓄米の無償交付の申請受付、お米の販売事業に関する届出の業務などを行っています。

お米の消費拡大に関する業務としては、近畿米粉食品普及推進協議会と連携して大阪で米粉フェスというイベントを行ったり、米粉商品を取り扱う店舗を取材してマップを作ったりしてお米の消費拡大を目指しています！米粉フェスでは様々な準備を行い、当日多くの人を楽しんでいる様子を見て達成感を感じました。

また、政府備蓄米無償交付に関して、初めは業務について理解することが難しかったですが、最近は業務にも慣れ問い合わせや申請の対応をして、感謝の言葉をいただいたときにやりがいを感じます。

～生活の基礎となる「食」を守りたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

法学部出身ですが、大学の授業で農業に関する課題や食料自給率の低下について学ぶ機会があり危機感を持ち、生活の基礎となる「食」を守りたいと感じたことがきっかけです。他の官庁や市役所などもいくつか受験しましたが、最終的な決め手は説明会や官庁訪問を通して近畿農政局の雰囲気の良いと感じたことでした。

近畿農政局の魅力は、職場の方々がとても優しいことです。入省前から「優しい人が多い」と聞いていましたが、実際に入ってみて本当に実感しました。分からないことがあるときは周りの皆さんが親身になって教えてくださいます。また、若手の意見もたくさん聞いてくださることも魅力の一つだと思います。1年目の私も意見を出しやすい環境です。

～研修や出張での意見交換等を通して知識が増えた～

Q3 職場環境について

質問や相談がとてもしやすい環境です。業務に関することはもちろん、直接的に関係ないことでも困っていることがあれば周りの方が気にかけてくださいます。

部署を超えて仕事をする機会があることもあり、夏休みの小学生向けのイベントでは若手職員の有志チームでブースの出展を行いました。研修や出張の機会も多くあり、私は事務系の採用で農業に関する知識がほとんどない状態でしたが、研修や出張での意見交換等を通して少しずつ知識が増えてきたと感じます。

また、年次休暇やテレワークに関してとても柔軟な環境です。1時間ごとにお休みを取ることができるので柔軟に予定を組むことができます。業務以外では、同期でお昼を食べたり、仕事終わりに飲みに行ったりと楽しく過ごしています。



（2024年度時点）

生産部園芸特産課施設園芸環境負荷低減係（令和6年度行政系採用）

～多種多様な業務があり、日々新鮮な気持ちで取り組むことができる～



Q1 今担当している業務は？

生産部園芸特産課で野菜の振興を担当しています。近畿管内の野菜に関する調査の取りまとめのような事務的なお仕事から、いちごの品評会への出席準備や『消費者の部屋』での展示など対外的なお仕事まで幅広く行っています。

また、国の事業で導入した施設や、生産者のもとに出向き、現地調査を行うこともあります。実際に農業をされている方からの生の声を聞くことで、いつも多くのことを学ばせていただいています。

入省前のイメージとは異なり、ルーティン業務だけでなく多種多様な業務があるため、日々新鮮な気持ちで取り組むことができます。

～日本の農業や食を守る一助になりたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

「食べることが大好き！」ということが近畿農政局を志望した一番大きな理由です。日本の食が大好きだからこそ、農業従事者の減少や食料自給率の低下に問題意識を持ち、私も日本の農業や食を守る一助になりたいと思いました。また、説明会等で職員の方々の優しい雰囲気の魅力を感じたことも理由の1つです。

近畿農政局の魅力は、若手が活躍できる場がたくさんあるところだと思います。YouTubeチャンネル『BUZZMAFF』やみどり戦略の若手チーム『ええやん！みどり』など、若手職員が主体的に取り組める場が多くあります。普段の業務では関わることのできない分野にも携わることができ、視野を広げることもできました。また、同世代の職員とも交流を深め、横のつながりができるのも魅力です！

～農業の知識がない中でも楽しみながら勉強～

Q3 職場環境について

職場の方々はとても優しく、質問や相談がとてもしやすい環境だと思います。私は事務系で入省し、農業の知識があまりない中で仕事を始めましたが、先輩方が「〇〇知ってる？」などと話しかけてくださり、日々楽しみながら勉強をさせていただいています。

また、業務で困ってしまった際も丁寧に教えてくださるので、安心して仕事を進めることができます。

休暇も取りやすく、プライベートと仕事が両立しやすい職場だと思います。最近では2日間年次休暇を利用して、3泊4日で友人とベトナム旅行に行きました！社会人になってもいろいろな場所に行くことができ、とてもうれしいです！

皆さんへのメッセージ

公務員試験は長くてつらいものだと思いますが、頑張った分結果もちゃんとついてくるものだと思います。私自身、最後の模試までギリギリの点数でとても不安でしたが、最後まであきらめずにやり続けたことで、本試験では、過去最高の点数を取ることができました。また、面接も正解がなく不安だらけだと思いますが、緊張しすぎず、みなさんの想いと普段の素敵ところを伝えてください。

つらいことも多いと思いますが、たまには好きなことをして息抜きしながら、最後まで頑張ってください！皆さまと一緒に働ける日を楽しみにしております！



(2024年度時点)

経営・事業支援部食品企業課（令和6年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

公務員試験については長期戦になる分、募った不安をいかに払拭するかに苦労した記憶があります。筆記試験については、人一倍勉強することで安心して試験に臨むことができましたし、面接については、自身の言葉で思いを伝えるだけだという意識を持つと、自然と緊張がほぐれました。そのため、本番までに自分なりの戦い方を見つけることが大切だと私は考えています。

また、気になる官庁や企業の説明会等に積極的に参加することで、悔いの残らない就職活動になると思います。

近畿農政局にて皆様と働ける日を楽しみにしております。

～自身のアイデアを基に何かを作り出す業務が多々あることに魅力～

Q1 今担当している業務は？

私は経営・事業支援部食品企業課にて、適正取引の推進や物流問題の把握等の業務を担当しております。業務上、食品製造業者の方とお話をさせていただくことが多いのですが、国としての立場からの視点だけでは気づかない様々な課題について認識することができ、自身の視野を広げることができる点に魅力を感じております。

また、課内では様々なことに挑戦をする機会があり、ホームページ作成やイベントで用いる資料・のぼりの作成など、主担当の業務だけではなく、自身のアイデアを基に何かを作り出す業務が多々あることも魅力だと感じております。

～国としての立場から、生産者から消費者に至るまでの人々を応援したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

私は普段から食品の裏の表示を見て、成分や産地を確認し商品を選ぶ習慣がありました。その中で、年々国産の商品が減少していると感じました。後世の方々が国産の食品を食べることのできるように、国としての立場から、生産者から消費者に至るまでの人々を応援したい、そのような思いから近畿農政局を志望しました。

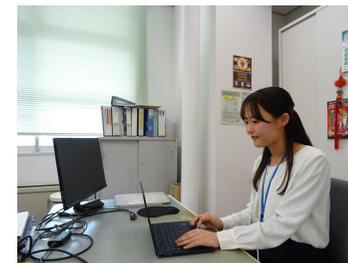
近畿農政局では、研修制度が充実しており、知見を広げることができる点が魅力だと感じております。例えば、部内においては、工場見学を行い直接製造事業者の方と意見交換を行ったり、部外においては、会計事務や統計データの取り扱いの基礎を学んだり等、部内の知識だけではなく、部を超えた様々な業務の知識を学ぶことができます。

～仕事とプライベートの両立がしやすい環境～

Q3 職場環境について

初めての業務内容に戸惑うこともありますが、何か分からないことがあればすぐに上司に相談できる環境にありますし、上司はご自身の知識や経験を踏まえて適切にアドバイスをしてくださるので、安心して業務に臨むことができっております。

また、テレワークや時差出勤などの制度が浸透しており、実際に課内においても多くの方が利用しています。さらに年次休暇の取得についても推奨されており、仕事とプライベートの両立がしやすい環境です。



農村振興部用地課用地係（令和6年度農村振興行政系採用）



皆さんへのメッセージ

アドバイスではありませんが、もし、試験を受ける前の自分に教えることができるならば、筆記試験では勉強の手を広げずに繰り返すこと、面接試験では自分がここで働きたいという想いをもっと純粋に伝えることを教えてあげたいです。公務員試験は長丁場になると思いますが、皆さんらしく、お体に気を付けて頑張ってください。そしてもし一緒に仕事させていただける機会がありましたらよろしく願います。めっちゃめっちゃ応援しています！

～周りからのサポートが厚く、とにかくまずやってみようと思える～

Q1 今担当している業務は？

私は公共事業に必要な土地の手当を行う農村振興部用地課に所属しています。現在担当している業務は、土地買収等に係る契約事務や土地を評価算定する書類のチェック、土地所有者の調査や所在確認及び相続人調査、打合せ・会議等の準備と議事録の作成、その他庶務業務です。必要な知識が多く難しいと感じます。しかし、その分毎日学ぶことがあって新鮮で充実していると思います。また、周りからのサポートが厚く、とにかくまずやってみようと思えます。

～形として残るハード面の整備に魅力を感じる～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

まず、この国の「農業」「食」に関わりたいという思いがありました。中でも形として残るハード面の整備に魅力を感じました。そこで、技官ではない私が事務官として関わることができないかと探していたところ用地の仕事を見つけました。また、地権者説明を始め、農政局外の方と接する機会が多いことや現場での立会いや調査など外で仕事をする機会が多いことにも興味を持ちました。

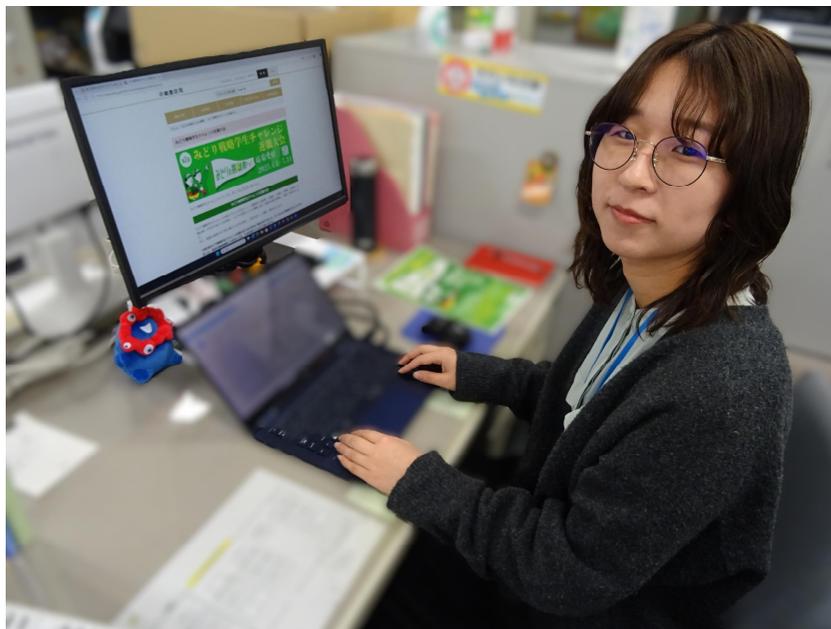
～多くのことを学び、挑戦をたくさん得ることができる職場～

Q3 職場環境について

多くのことを学び・挑戦する機会をたくさん得ることができる職場だと思います。勤務時間内外及び仕事に関する内容か否かを問わず、色々なことが相談しやすく、楽しい話もたくさんできるので居心地が良いです。また、課として一体となって仕事を進めようとしていて、そのために議論を欠かさないことに力を入れていることが間近で見えてよく分かります。加えて、仕事とプライベートのメリハリはしっかりあり、年次休暇は積極的に確保することができます。最後に、入省前とのギャップは特にありません。人の良さはイメージどおりですので、雰囲気を感じられる近畿農政局の説明会や座談会等に参加されることをお勧めします。



企画調整室 (令和7年度行政系採用)



皆さんへのメッセージ

科目数が多く、試験範囲も広い筆記試験、うまく話せるか不安で仕方ない面接試験、と私にとって公務員試験は苦しい思い出でしたが、5分だけでもいいので、勉強や面接対策などをとにかく毎日続けたことが良かったと思っています。その積み重ねが本番の自信につながり、落ち着いて取り組むことが出来ました。

特に面接対策は、何度も繰り返し、自分の伝えたい思いを適切に言葉にできることが大切だと思います。

様々な官公庁や企業があるとは思いますが、その中で近畿農政局を選んでくださった皆様と一緒に働けることを楽しみにしております。たまには休みつつ、体調に気を付けて頑張ってください。応援しています。

～幅広い調整と発信で農政を支える～

Q1 今担当している業務は？

企画調整室では本省・近畿農政局内等との連絡調整や、局議（局内幹部会議）に係る資料の取りまとめ、局の総合窓口としての相談対応などの業務を行っています。様々なお問い合わせに対応するため、農林水産施策や各部の業務内容について広く理解しておくことが求められますが、農政局の業務の幅広さに驚きつつも知識が増えていくことに楽しさを感じています。

また、みどりの食料システム戦略の推進として、HPの作成やイベントで使用するパネル・資料の作成、学生チャレンジ近畿大会の事務局運営などにも携わっています。より分かりやすい情報発信のあり方を追及し、自ら考えて動く機会があることもやりがいの一つになっています。

～「食」を通じて地域や環境を守りたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

大学では環境政策を専攻していたため、当初は漠然と「環境保全や地域活性化に関わる仕事に携わりたい」と考えていました。その中で近畿農政局の業務説明会に参加し、都市と農村の交流活性化や農業における環境負荷低減などの様々な取組を行っていることを知り、国家公務員でありながらも地域に近い立場であることや、「食」を通じて地域や環境を守るという仕事に魅力を感じ、近畿農政局を志望しました。

近畿農政局では、BUZZMAFFやみどりプロジェクトなどの若手有志活動チームを通じて、部署をこえて関わるができる、また、あたたかい雰囲気が魅力だと思います。若手職員によるプロジェクトチームで活動したり、他部署の出張へ同行する機会があったりと、同期と、そして様々な職員の方と一緒に働くことができます。



みどりプロジェクトに参加した際の様子

～相談しやすく、仕事とプライベートが両立できる職場～

Q3 職場環境について

職場の方々は穏やかで優しく、分からないことがあっても相談しやすい環境だと思います。私は農業に関する知識があまりない中で入省したのですが、業務に関して丁寧に教えてくださったり、研修の機会が多くあったりと、安心して業務に取り組むことができます。みなさん個性豊かで様々な経験をされていらっしゃるの、話していてとても楽しいです。

また、休暇が取りやすく、テレワークや時差出勤の制度も充実しています。自分の予定に合わせて柔軟に休みを取ることができ、仕事だけでなくプライベートも大切にすることができると思います。

会計課補助金係（令和7年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

何が評価されるのか正解のない面接で皆さん苦労されると思います。私の経験から助言を出すならば、これまで縁遠かった農林水産業について理解を深めるために本を読んでいたことは、今振り返ると有意義であったように思います。生産物は最終的に消費者のもとへ届くので、誰もが農林水産業に関わっているということなどを学ぶ中で、生産者の視点だけでなく消費者の視点も重要であると気づきました。こうした気づきを得られただけでも、本を読む価値があったと思います。

この経験がどなたかの参考になればとの願いを結びに代えまして、私の言葉とさせていただきます。

～補助金等の交付事業を事務の面でサポート～

Q1 今担当している業務は？

会計課補助金係に配属され、補助金関係の書類の審査を主たる業務として担っています。補助金等の交付事業を事務の面でサポートしていくようなイメージです。また、補助金関係の帳簿の管理やシステムの操作なども行っています。学ぶことも多く大変ではありますが、徐々にできることが増えてくると自身の成長を実感します。自信をもって書類審査の承認ができるようになったときの喜びもひとしおです。

補助金という大きな金額が動く分野に関われることは公務員ならではの醍醐味だと思います。総務課や会計課などの内部業務に興味がある方には会計課補助金係をぜひお勧めします。

～近畿における地方地域の活性化に貢献したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

近畿における地方地域の活性化に貢献したいとの思いから志望しました。スーパーでのバイトの際に商品が日々大量に廃棄される様子を見て、生産者の方に申し訳なく思ったことが大きなきっかけです。そこから生産地たる地方地域の経済に興味を持ち、いつしか志望動機へとつながりました。

近畿農政局の魅力は、国家規模の仕事をしながらも現場とも近い距離感でいられることだと思います。

私は業務柄外出することは減多にありませんが、同期の話を見ると現場に出向く機会のある課も多いようです。

現場業務が少ない部署であっても他課の現場業務に同行出来る機会も多く用意されているのでぜひ参加してください。



～相談しやすく、休暇が取りやすい職場～

Q3 職場環境について

穏やかで優しい方が多い印象です。上司にExcelやOutlookの初歩的な操作を尋ねた際にも懇切丁寧に教えていただきました。

自分の仕事は大小問わず、誰かしらの何かしらの仕事に直結していることが多いです。疑問点は後に尾を引くこともあるので、一人で抱えきれないうちは早めに報連相しておく必要があります。そして相談しやすい雰囲気であることは非常にありがたいと感じます。

職場では休暇取得を推進しており、上司の方からも積極的に取得するよう奨励されていますので有給休暇は取りやすい環境だと思います。

経営・事業支援部担い手育成課（令和7年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

公務員試験に向けて、筆記試験の勉強をしたり志望度を問わず様々な官庁の説明会に参加したりしていました。筆記試験の勉強では、問題集でのアウトプットの時間をしっかりと確保することを心掛けていました。また、様々な官庁の説明会に参加することで、インターネットやパンフレットなどの情報よりもさらに詳しい話を聞くことができ、官庁ごとの雰囲気の違いを感じることができました。

面接については、緊張しましたが会話であることを意識して自分の言葉で伝えることを意識するようにしました。

公務員試験は、筆記試験の範囲が広いことや就職先が決まるまでの期間が長いことなど大変なことも多いかと思いますが、体調に気を付けて自分のペースで頑張ってください。

～担い手を支える調整業務～

Q1 今担当している業務は？

担い手の育成・確保に向けて、認定農業者制度等を担当しています。認定農業者の手続きに向けて、申請者から経営状況や今後の経営について電話やメールでお話を伺ったり、申請者が営農されている市町村と調整を行ったりしています。

また、補助金業務を行ったり、局外の方との意見交換に参加したりすることもあります。農業者など、局外の方のお話を伺う機会も多く、日々様々なことを学んでいます。

幅広い業務をとおして、少しずつ仕事に必要な知識が増えていることを実感するときややりがいを感じています。

～日本の農業や安心・安全な「食」を守ることに携わる仕事がしたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

大学などで農業について学ぶ機会はあまりなく、日本の農業が抱える課題についてのニュースを見る程度でした。近畿農政局の説明会に参加した際に、日本の農業が抱える課題に対して様々な視点から取組がなされていることを知り、私も近畿農政局で日本の農業や安心・安全な「食」を守ることに携わる仕事がしたいと感じ、志望しました。

近畿農政局では、メンター制度や研修制度などの新規職員へ向けたサポートが充実しており、困ったことがあるときなどに同期や先輩に相談しやすいところが魅力だと思います。

～仕事とプライベートの両立がしやすい職場～

Q3 職場環境について

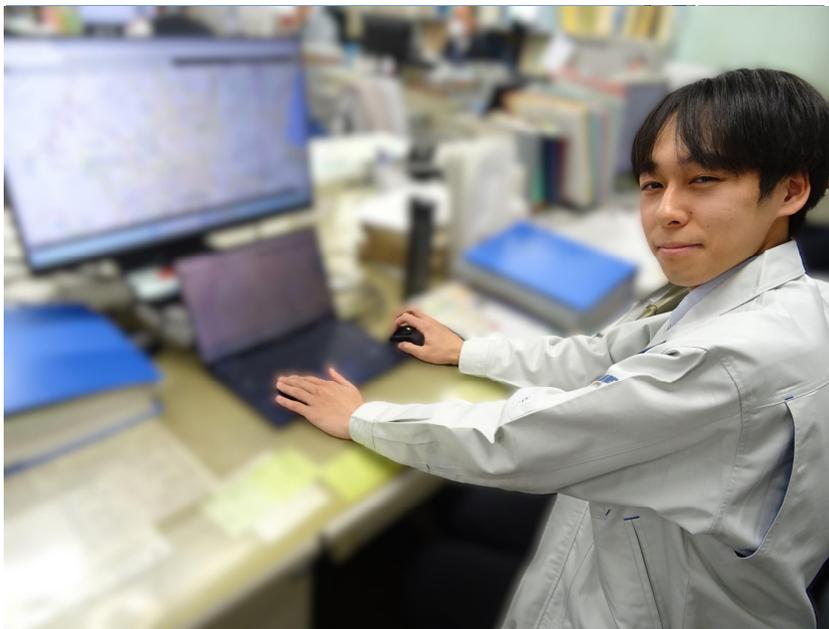
職場環境について、所属の課の上司は質問に丁寧に答えてくれるので、分からないことがあっても一人で抱え込まずに解決することができます。農業についての知識がなく入省しましたが、上司が業務に必要な知識を適宜教えてくれたり業務に役立つ資料を提供してくれるので、とても感謝しています。入省前は、デスクで黙々と業務を行うというイメージがありましたが、入省すると職員同士でコミュニケーションを取りながら業務を行うことが多かったため、入省前のイメージよりも業務を進めやすいと感じています。

また、時間単位での有給休暇やフレックス制度などを利用することができるため、プライベートとの両立がしやすいと感じています。



出張で淡路島に行った際の写真

農村振興部水利整備課管理調整係（令和7年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

私からは、学生のうちに様々な経験をして欲しいということを伝えたいです。私は入省してから様々な業務に触れさせていただきましたが、その中で思いもよらぬところで役立つ知識やスキルが多くありました。なにか準備しないといけないと焦る気持ちもわかりますが、興味のあることに突き進むことも案外近道になると思います。ですので、学生時代のうちに思う存分経験して欲しいと思います。

ただ、公務員試験の直前期にはそのようなことを言っている場合ではないので（笑）、志望する思いとこれまでの努力を信じて最後までチャレンジして欲しいと思います。

同じ職場で働けることを楽しみにしています。応援しています！

～農業や農村の基盤を支える一端を担う～

Q1 今担当している業務は？

私は水利整備課管理調整係にて、農林水産省が所有している水路やダム等の農業水利施設及び土地等の管理に関する業務を行っております。例えば、現地で農業水利施設を管理して下さる方々等に点検や調査等の依頼をし、その結果の取りまとめや報告を行ったり、農林水産省所有の農業水利施設の利用や工事に関する申請手続き等、担当する業務は多岐にわたります。

そうした業務に取り組むうえで、土地や施設の管理に関する法律的な知識や技術的な知識に触れるため、難しく感じる場面も多々あります。しかし、少しずつではありますが、分かることが増え、農業や農村の基盤を支える一端を担っていることにやりがいを感じます。

～地域農業の課題に対して農業・農村の面から携わりたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

近畿農政局を志望したきっかけは、大学時代、地域おこしを目的に農業に触れたことでした。普段何気なく食べている食料がどこでどのようにして作られているか、現在置かれている農村の厳しい現状に対して今後どうすべきか、身をもって考えさせられた際、農業や農村に携われる仕事がしたいと思い、近畿農政局を志望しました。

また、近畿農政局の魅力は、日本の食や農村について関心を持つ人であれば業務内容はもちろん、業務に取り組む環境も魅力だと思います。人や雰囲気の良い、研修制度等業務について学ぶ機会が多いこと、若手が主体的に動ける場があること、どれも近畿農政局の魅力だと思います。

～手厚い研修制度と心強いアシストがある環境～

Q3 職場環境について

近畿農政局には優しい方や話すことが好きな方が多くいらっしゃる印象です。そのためか、職場の雰囲気は和やか（時には賑やか）で質問や相談もしやすく、分からないことは教えていただける環境だと思います。特に農村振興行政系については、現場にある事業（務）所の先輩方から、現場業務を教えていただく機会もあります。

入省前は知識面や能力面でかなり心配をしていましたが、こうした手厚い研修制度と先輩方の心強いアシストがあるため、問題なく業務に取り組める環境だと思います。



（立木の補償をするために）木の幹回りを調査している様子

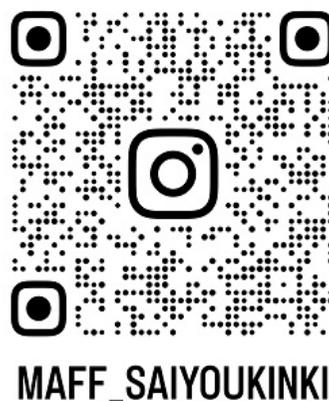
ご覧いただきありがとうございました！

- 近畿農政局の行政区分に関する情報は、近畿農政局HP、採用担当Instagram、採用担当Xに掲載しています。

近畿農政局HP



採用担当Instagram



採用担当X



- お問い合わせ先（行政）

農林水産省近畿農政局総務課人事第1係

Mail: saiyou_kinki@maff.go.jp

Tel: 075-414-9032

ご不明なことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。